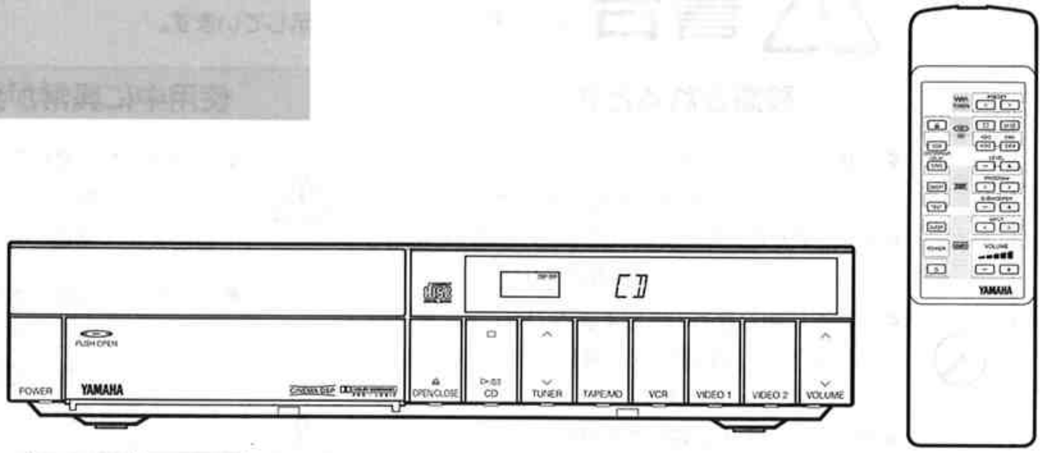
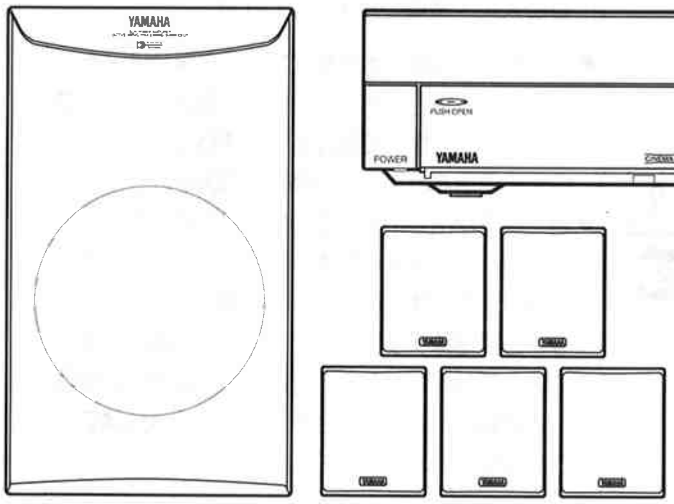
YAMAHA

コンパクトシステム

AV-1

取扱説明書





COMPACT disc DIGITAL AUDIO

Active Servo Technology

このたびは、ヤマハコンパクトシステムAV-1をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。
AV-1の優れた性能を充分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

本機は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ご使用の前に必ずお読みください。

目 次

安全上のご注意 .... 2〜3
特長 4
はじめに 5
ようこそ！ヤマハCINEMA DSPの世界へ 6
お使いになる前の準備（設置と接続） .... 7〜19
各部の名称とはたらき .... 20〜21
リモコンの準備 22
時刻の合わせかた 23

基本操作（電源・音量調節） .... 24〜25
CDを聴く .... 26〜29
FM/AM放送を聴く .... 30〜33
音場効果を楽しむ .... 34〜38

聴きながらおやすみになるには（スリープタイマー） 39
タイマー再生するには .... 40〜41
接続した機器を再生するときは 42

ディスクについて 43
お手入れについて 43
故障かなと思ったら .... 44〜45
仕様について 46
ヤマハホットラインサービスネットワーク 47

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置されるとき

- 本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。
- 表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用になるとき

- 本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
- 本機の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

分解禁止

- 本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、アンテナ線には触れないでください。感電の原因となります。
（屋外アンテナ使用時）

使用中に異常が発生したとき

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- 万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

絵表示の例

指を挟まれないよう注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

安全上のご注意

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき

- アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。
  - ・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。
  - ・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。

- 本機を設置する場合は、間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。また、CDディスクは取り出しておいてください。それを怠ると故障の原因となることがあります。

ご使用になるとき

- 接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
- 再生を始める前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

指を挟まれないよう注意

- お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

お手入れについて

- 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

特長

- CDプレーヤーとチューナーを内蔵したプリアンプ部と、6チャンネルパワーアンプを内蔵したサブ（スーパー）ウーファー部に分かれた、ニューデザイン/コンセプトのコンパクトシステム

- フロント2台、リア2台、センター1台、サブ（スーパー）ウーファーの6スピーカーシステムで、迫力と臨場感にあふれる音場再生を実現

- サブ（スーパー）ウーファーには、豊かな重低音を再生するヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー（YST）を搭載

- 映画、コンサートからディスコまで、様々なソースに迫力と臨場感を与える8種類の音場プログラムを搭載

- ドルビー処理された映像ソフトの音場を忠実に再現するドルビープロ・ロジック搭載

- フロント、リア、センターは実用最大出力30W/ch、サブ（スーパー）ウーファーの実用最大出力50Wで、迫力ある音が楽しめます

- FM/AM合計40局ランダムプリセット機能搭載のシンセサイザーチューナー（AMステレオ対応）

- 電源スイッチがオフの状態から、ワンタッチで再生が始められるダイレクトプレイ機能

- 色やマークを合わせるだけの簡単接続

- 機能を厳選したシンプルオペレーション

- 操作性重視のシンプルリモコン

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店でかならず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

はじめに

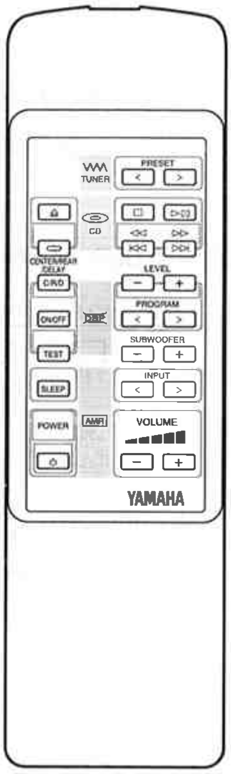
はじめに、次のことをお確かめください

1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？

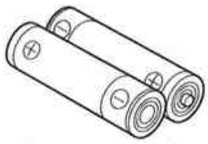
2 付属品はすべて揃っていますか？

付属品

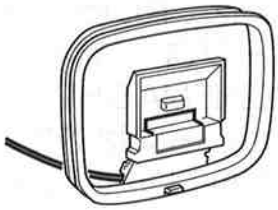
リモコン



単３乾電池　２本

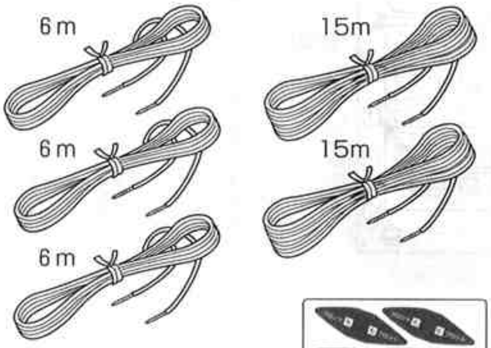


AMループアンテナ

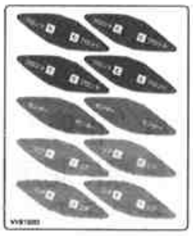


FMアンテナ

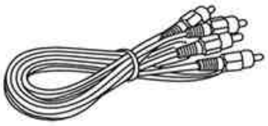
スピーカーコード（6ｍ：３本、15ｍ：２本）



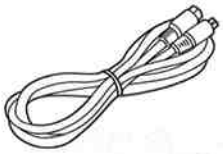
スピーカーコード
識別シール



音声接続ケーブル（１本）



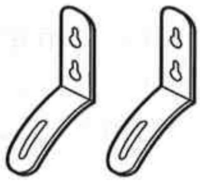
システムコネクターケーブル　（１本）



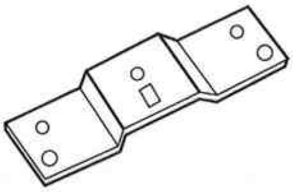
スピーカー取り付け金具
Aタイプ３枚、Bタイプ２本、Cタイプ５枚

Aタイプ×3

Bタイプ×2



Cタイプ×5



ネジ（8本）

蝶ネジ（2本）

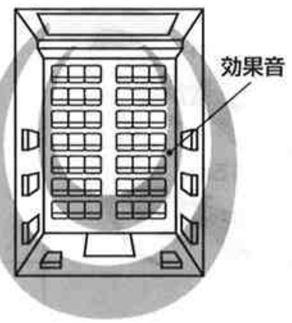
ようこそ！ ヤマハCINEMA DSPの世界へ

ヤマハAV-1は、映画館やコンサートホールで体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタルサウンドフィールドプロセッサー（DSP）搭載しています。

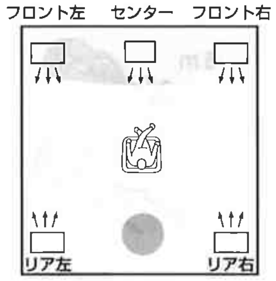
部屋を映画館に変える音 CINEMA DSP

映画の音場再生方式：ドルビーステレオは、映画館の広い空間に多数のサラウンドスピーカーを観客の回りに配置して再生することを前提としています。
したがって、映画のソフトを再生しても、再生環境の異なる私たちのリスニングルームでは、映画館で体験したような迫力と臨場感を得ることは困難でした。
本機は、ドルビーステレオを家庭で再現できるように開発されたドルビープロ・ロジックと、ヤマハ独自のDSP技術を融合させた「CINEMA DSP」を搭載しています。
ドルビー処理されたソフトを「CINEMA DSP」音場プログラムを使ってを再生しますと、迫力と圧倒的な臨場感にあふれたホームシアターサウンドを体験することができます。

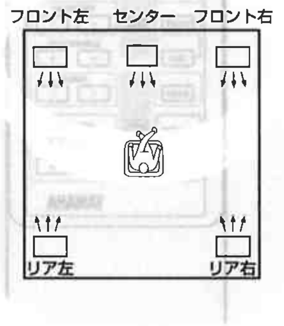
映画館の音場再生



家庭でのサラウンド再生



CINEMA DSPによる音場再生



ソフトに合わせて選べる音場プログラム

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどでの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。
本機は、それらの音場を再現するプログラムを搭載していますので、著名ホールやライブハウスの音場をご家庭のリスニングルームに再現することもできます。

＊ 音場とは：「その空間が持つ特有な音の響き」を音場と呼んでいます。

臨場感の決め手、迫力の重低音

低音は、映画の臨場感や迫力を決める重要な要因です。本機のサブ（スーパー）ウーファーはYST（ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー）という独自の方式で低音を再生。コンパクトなサイズでありながら、迫力の重低音を再現します。

お使いになる前の準備（設置と接続）

ヤマハAV-1をお使いになる前に、下記の手順に従ってご準備ください。

1　スピーカーの置き場所を決めます。→8ページ

- DSPの効果を充分に発揮させるためには、スピーカーを正しく配置することが必要です。

2　スピーカーを接続します。→9から11ページ

- 付属のスピーカーコードを使います。

3　アンテナを接続します。→14ページ

- FM/AM放送をきれいな音で聴くために必要です。

4　ビデオデッキやテレビを接続します。→16から18ページ

- 色々なソース（音源：ビデオやLD、テープなど）が楽しめます。

5　本体（TCD-AV1）とサブ（スーパー）ウーファー（SW-AV1）を接続します。→19ページ

6　電源コードを接続します→19ページ

- 電源コードは必ず最後に接続します。

リモコンの準備→22ページ

- リモコンに付属の乾電池を入れておきます。

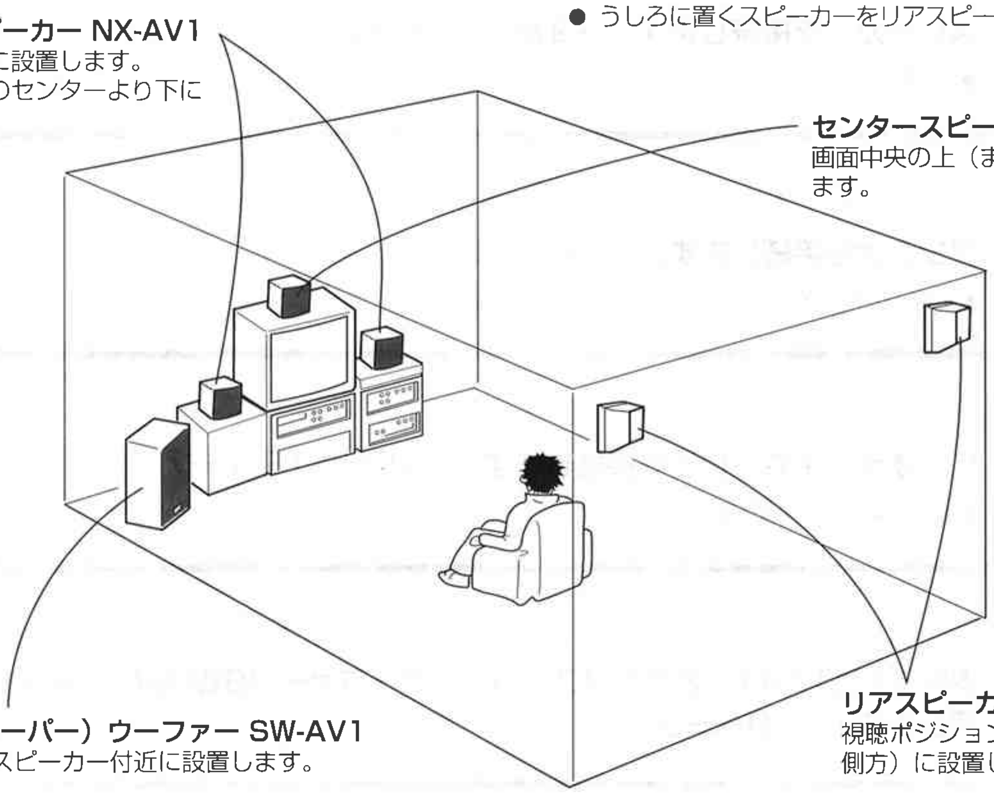
時刻の合わせかた→23ページ

- 時計やタイマーを使うために時刻を合わせます。

スピーカーの置きかた

スピーカーは図の設置例を参考に置いてください。バランスの良い音場効果がお楽しみいただけます。

- 5台のスピーカー（NX-AV1）はすべて同じ規格です。どのスピーカーをどの位置に置いてもかまいません。
- テレビの両脇に置くスピーカーをフロントスピーカーと呼びます。
- テレビの上または下に置くスピーカーをセンタースピーカーと呼びます。
- うしろに置くスピーカーをリアスピーカーと呼びます。



フロントスピーカー

従来のステレオ再生と同じように、左右のスピーカーをリスニングポジション（聴く場所）から等距離のところに置きます。テレビを設置しているときは、左右のスピーカーとテレビとの距離を同じにします。

センタースピーカー

センタースピーカーはテレビ画面とスピーカーの前縁をそろえ、テレビの上、下またはラック内など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。

リアスピーカー

お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

サブ（スーパー）ウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、サブ（スーパー）ウーファーを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試しください。

ご注意

- 本機のスピーカーは防磁タイプですが、テレビの近くで使用して、テレビの画面に色むらが起きる場合はスピーカーとテレビの距離を離してください。
  消磁機能があるテレビをご使用の場合は、次のように対処してください。
  1 テレビの電源を切る
  2 30分たってから、もう一度テレビの電源を入れる
  色むらが起こらなければ、そのままの状態でお使いになれます。それでも色むらが起きるときは、スピーカーとテレビとの距離を離してください。
- 放熱を良くするために、サブ（スーパー）ウーファーは上面20cm、背面10cm、側面10cm以上の隙間を開けてください。

スピーカーの接続

スピーカー接続端子について

サブ（スーパー）ウーファーの後面にあります。

- 付属のスピーカー（NX-AV1）以外は接続しないでください。（他のスピーカーを接続した場合、故障の原因になります。）

メモ

スピーカー端子への接続が終わったら、スピーカーコードの両端に付属のスピーカーコード識別シールを付けておくと、接続の間違いが防げます。

フロントスピーカー

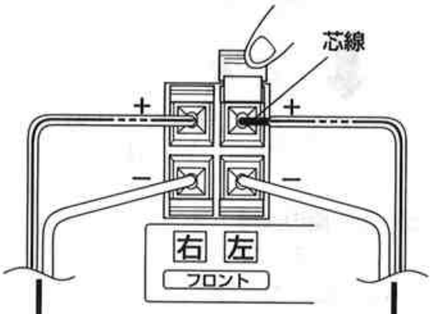
付属のスピーカーコード（6m）を使って、テレビの両側に置く左右のフロントスピーカーを接続します。

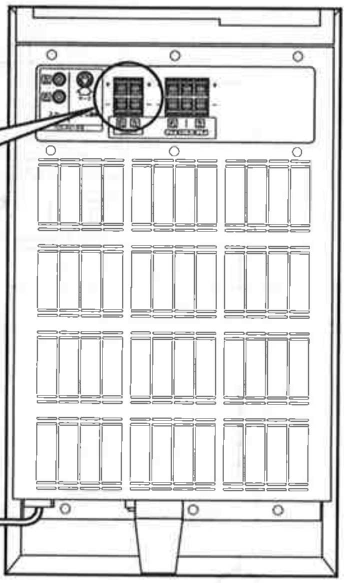
- フロント左端子にはフロント左スピーカーを接続します。
- フロント右端子にはフロント右スピーカーを接続します。

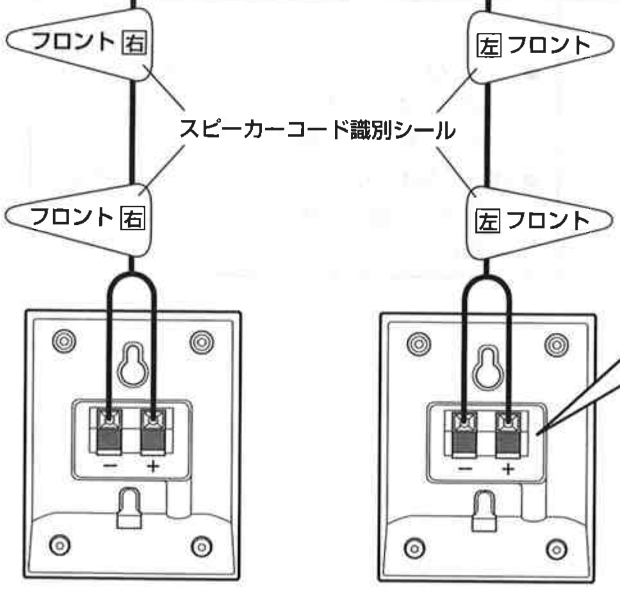
接続のしかた

① レバーをたおし
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

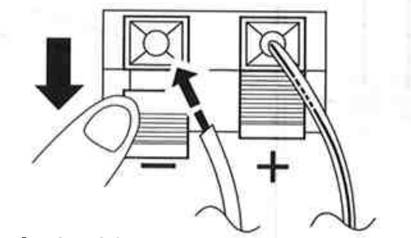
- ライン入りのコードを＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを−端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。







フロント右スピーカー　　フロント左スピーカー



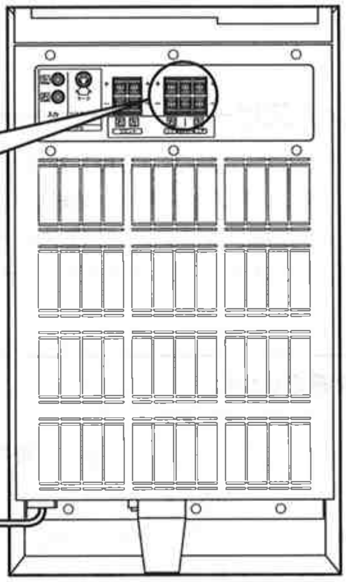
スピーカー側の接続

① レバーを押しながら
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

- ライン入りのコードを右側の＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを左側の−端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

センタースピーカー

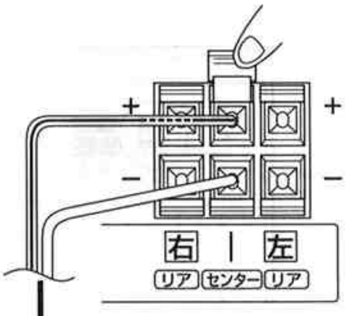
付属のスピーカーコード（6ｍ）を使って、テレビの上または下に置くセンタースピーカーを接続します。

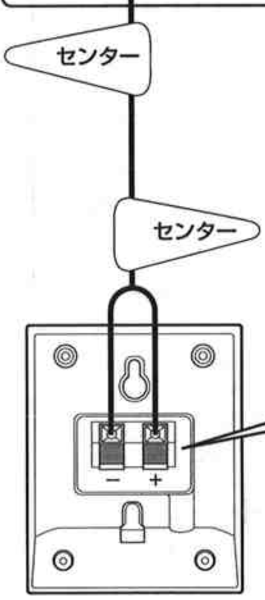


接続のしかた

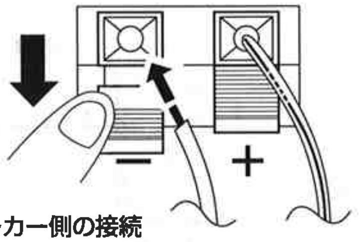
① レバーをたおし
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

- ライン入りのコードを＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを－端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。





センタースピーカー



スピーカー側の接続

① レバーを押しながら
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

- ライン入りのコードを右側の＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを左側の－端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

リアスピーカー

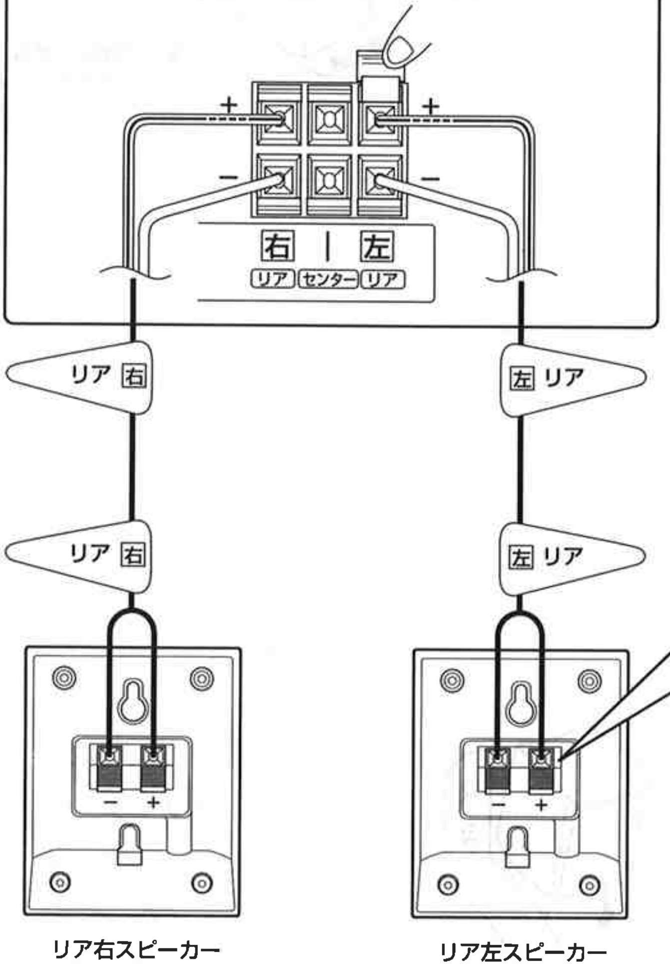
付属のスピーカーコード（15m）を使って、後方に置く左右のリアスピーカーを接続します。

- リア左端子にはリア左スピーカーを接続します。
- リア右端子にはリア右スピーカーを接続します。

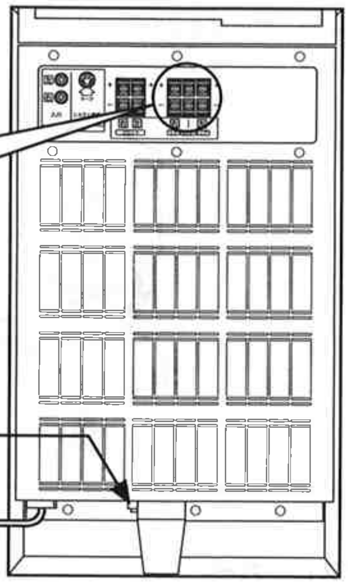
接続のしかた

① レバーをたおし
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

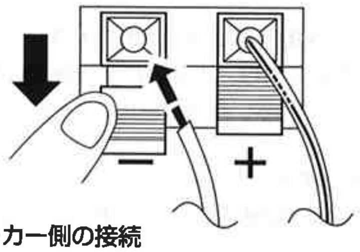
- ライン入りのコードを＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを－端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。



リア右スピーカー　　リア左スピーカー



サブウーファー端子



スピーカー側の接続

① レバーを押しながら
② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
③ レバーを戻す。

- ライン入りのコードを右側の＋端子（赤）に接続し、もう一方のコードを左側の－端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

ご注意

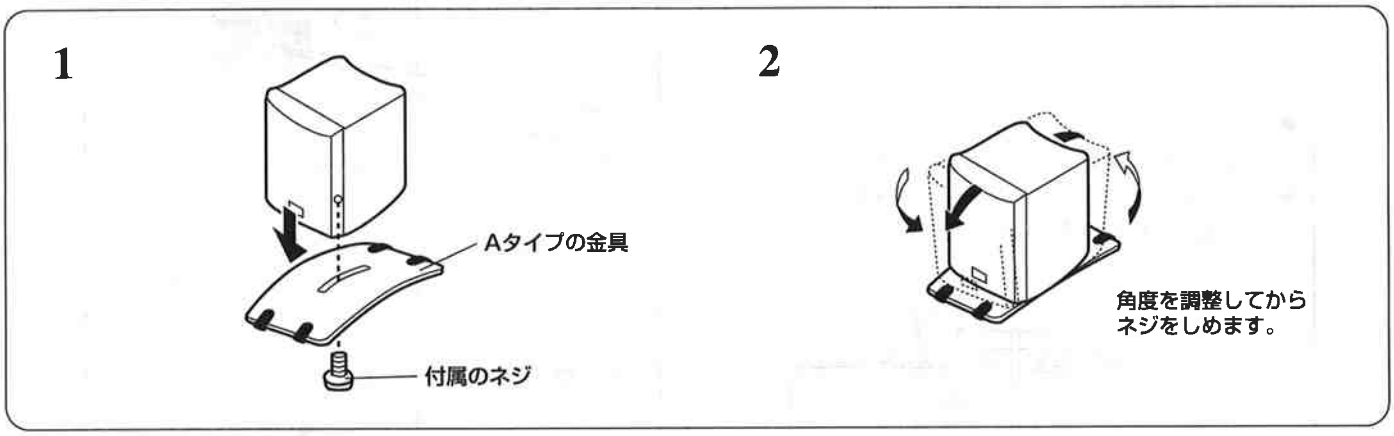
- スピーカーコードはプラス（＋）とマイナス（－）を間違えないように接続してください。
- スピーカーコードはプラス（＋）とマイナス（－）がショート（接触）しないように、しっかりと奥まで差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分（ビニール）まで差し込むと音は出ません。
- サブ（スーパー）ウーファー背面下部にあるサブウーファー端子は、工場出荷時にすでに接続されています。この端子にはお手を触れないでください。

スピーカー取り付け金具の使いかた

■フロントスピーカー、センタースピーカー

Aタイプの金具をフロントスピーカーやセンタースピーカーに取り付けますと、スピーカーが安定します。

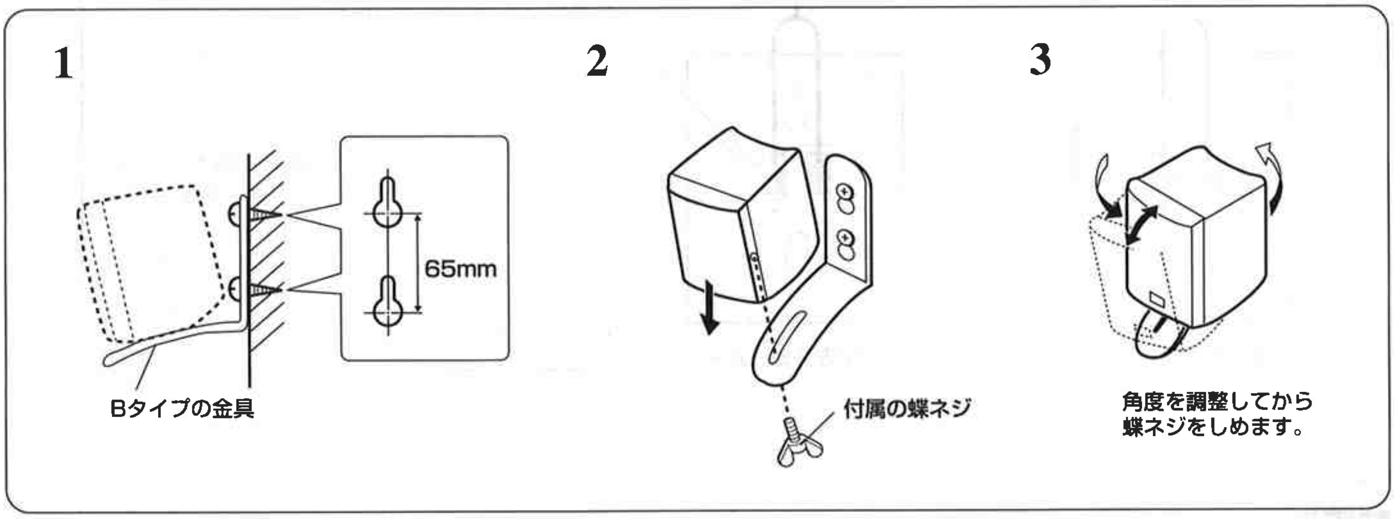
1 付属のネジで金具をスピーカー底部に付けます。
2 スピーカーの角度を調整し、ネジをしめます。



■リアスピーカー

リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属のBタイプの金具を使います。

1 リアスピーカーを掛ける場所に2本の木ネジ（市販品：直径4mm程度）を取り付け、木ネジに金具を取り付けます。
   - 木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。
2 金具に、付属の蝶ネジでスピーカーを付けます。
3 スピーカーの角度を調整し、蝶ネジをしめます。

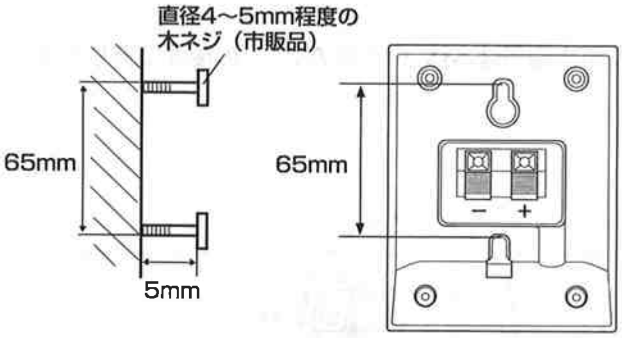


スピーカーを直接壁に取り付けるときは

Bタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

ご注意

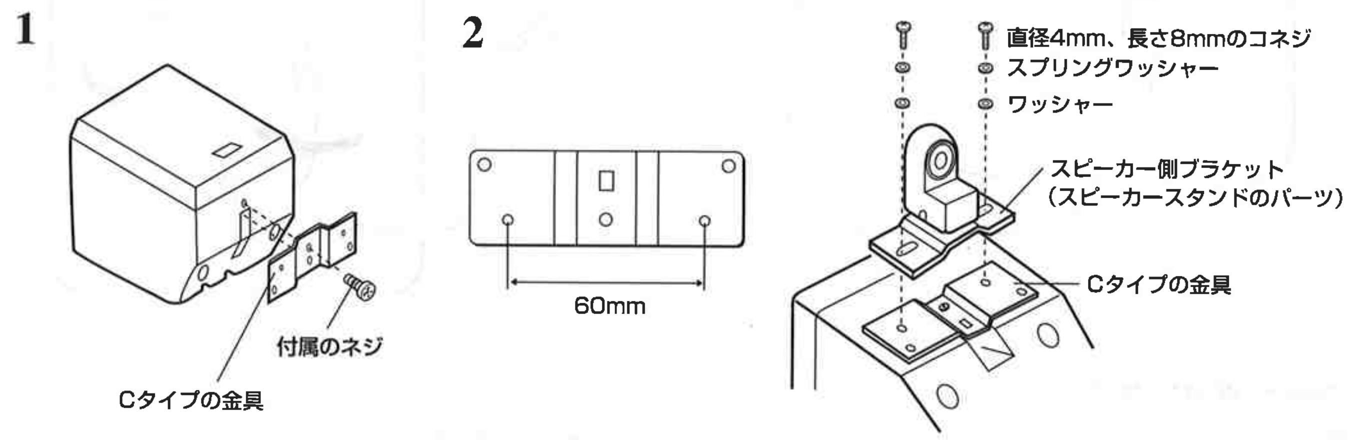
取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。



市販のスピーカースタンド（ネジ穴間隔60mm：ヤマハSPM-5など）を使用するときは

1 付属のネジで、スピーカー底部に**Cタイプの金具**を取り付けます。
- 金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにします。

2 金具の穴（60mm）を使い、金具とスピーカースタンドのスピーカー側ブラケットをネジで固定します。
- 直径4mm、長さ8mmのコネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。

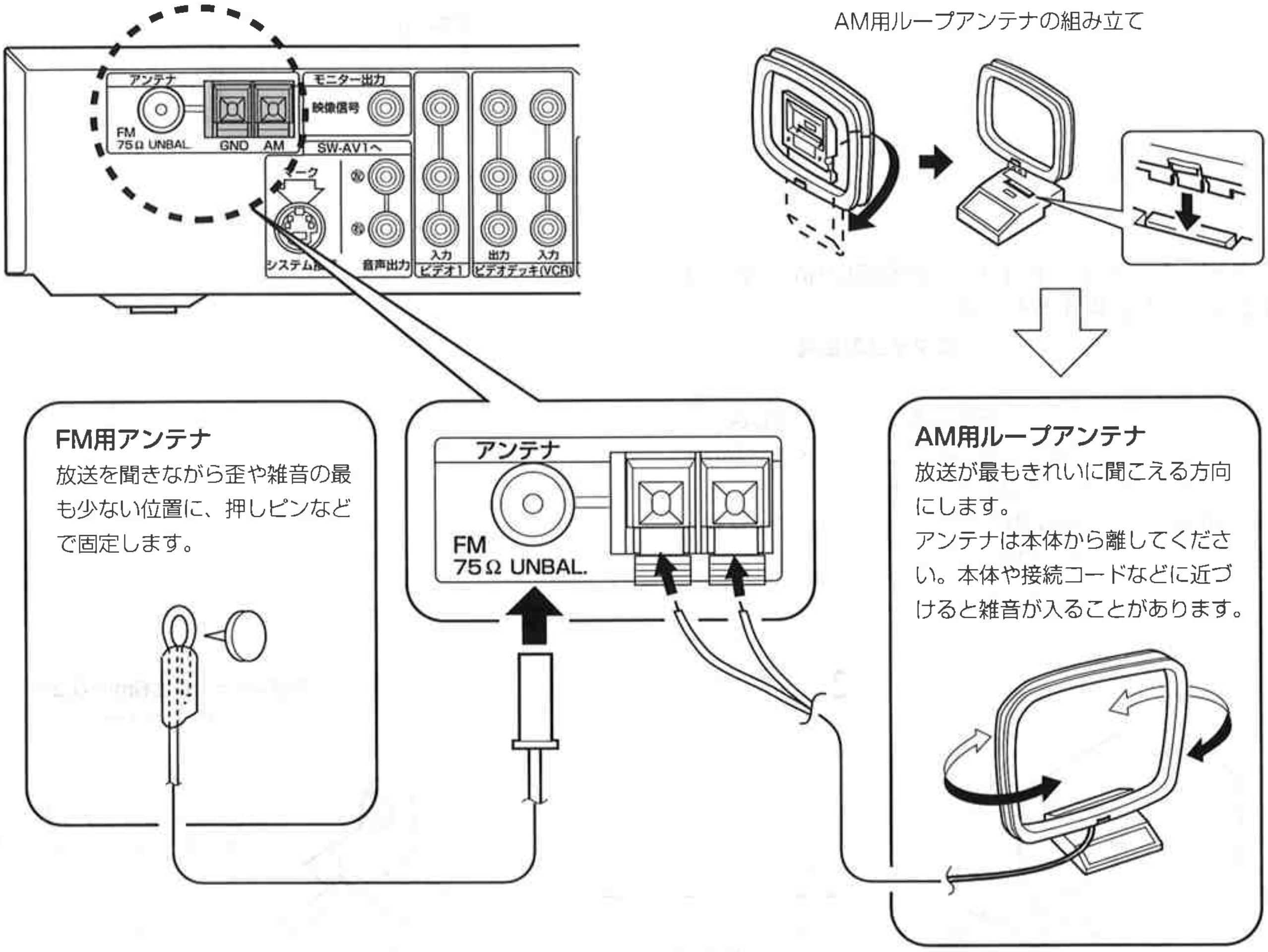


ご注意 **（重要なご注意です。必ずお読みください。）**

- スピーカーは1台約0.7kgの重量があります。ネジを止める場所は、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルなどはがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けて落下などの危険があります。
- 金具を釘や両面テープなどで取り付けないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下する危険があります。
- スピーカーコードをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。スピーカーコードはスピーカー背面の溝を通します。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

アンテナの接続

アンテナ端子は本体（TCD-AV1）の後面にあります。



アンテナの取り付けかた

FM用アンテナ

FM用アンテナ線をFMアンテナ端子（FM75Ω UNBAL.）中央のピンに差し込みます。

AM用ループアンテナ

接続の前にAM用ループアンテナを組み立てます。

① GND端子とAM端子のレバーを下に倒します。

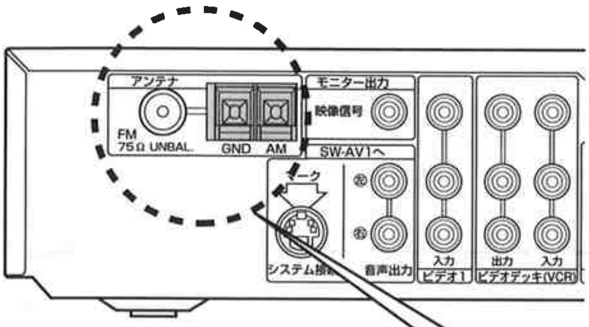
② AM用ループアンテナ線の芯線を、GND端子とAM端子の穴に差し込みます。どちらの線がどちらの端子でもかまいません。

③ レバーを上に引き上げます。

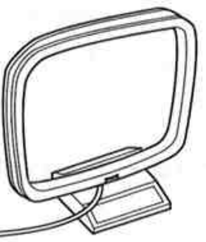
● 接続が終わったらアンテナ線を軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

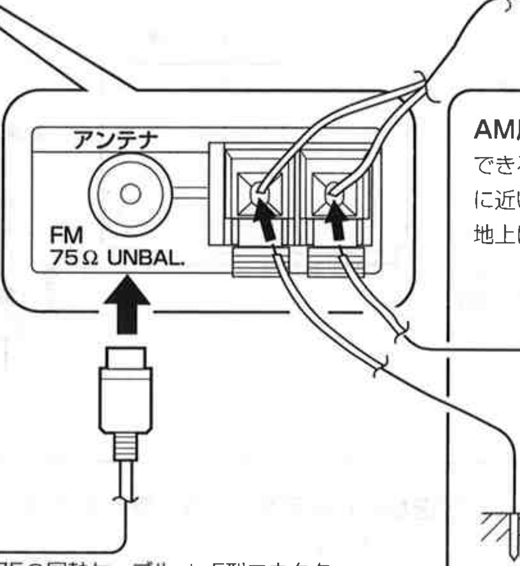
屋外アンテナの接続

付属のアンテナでFM/AM放送がきれいに聴こえないときは、屋外アンテナを使います。
（屋外アンテナのつなぎかたなど、くわしくは販売店におたずねください。）



AMループアンテナ

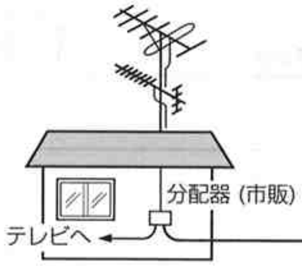




75Ω同軸ケーブル + F型コネクター
（市販）（市販）

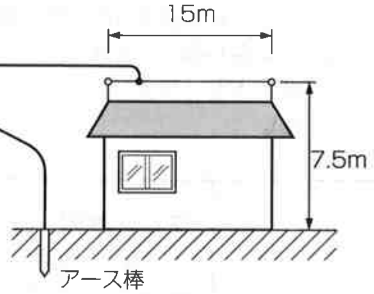
FM用アンテナ

市販のFM屋外アンテナで受信してください。（FM屋外アンテナに比べ特性は劣りますが、分配器を使いTV用アンテナを使用することも可能です。）



AM用アンテナ

できるだけ高さ7.5m、水平部15mに近い寸法のアンテナ線を屋根または地上に張ると効果的です。



●アースについて

通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをおすすめします。
アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

ご注意

アースを水道管やガス管に取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対おやめください。

屋外アンテナを立てる場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
  ビルや山のかげなど、障害物がある所では、最もよく受信できる所に立てて方向も変えてみます。
- 送電線の下には立てないでください。
  送電線にアンテナが触れると大変危険です。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう、道路や線路からはなれた所、またはそれらが見えない所に立てるようにしてください。
- 落雷のおそれがありますのであまり高い所には立てないでください。

他の機器の接続

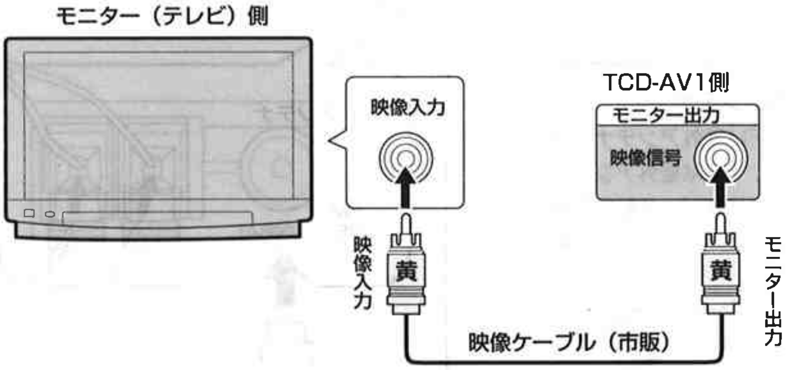
接続の前に

- 各機器の接続は本体（TCD-AV1）とサブ（スーパー）ウーファー（SW-AV1）を接続する前に行ってください。
- 接続する機器の電源を必ず切ってから行ってください。
- 接続ケーブルは付属していません。お買い上げの販売店でお求めください。
- 音声信号の左/L端子（白）には接続コードの白のプラグを、右/R端子（赤）には赤のプラグを接続します。また、映像信号端子（黄）端子には黄色のプラグを接続します。
- プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと雑音の原因になります。
- 接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

テレビ（モニター）のつなぎかた

映像ケーブルを使って、本体（TCD-AV1）のモニター出力端子とテレビ（モニター）の映像入力端子を接続します。

- 本体（TCD-AV1）のモニター出力端子からは、映像信号だけが出力されます。
- 本機は、テレビ画面の自動ワイド識別信号には対応していません。モニターにワイドテレビを接続したときに画面がワイドにならないときは、テレビ側で画面モードを「ワイド」に設定してください。



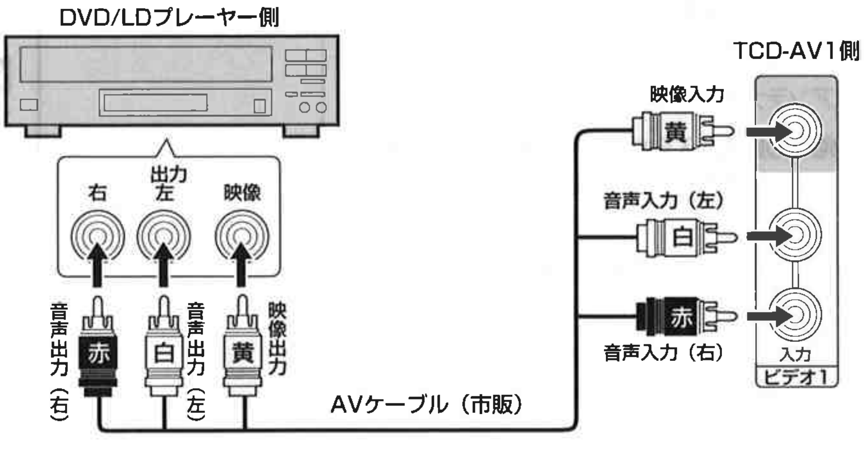
テレビ番組（BS放送など）の音を、本機で聴くときは

接続ケーブルを使って、本体の空いている音声入力端子とテレビの音声出力端子を接続します。

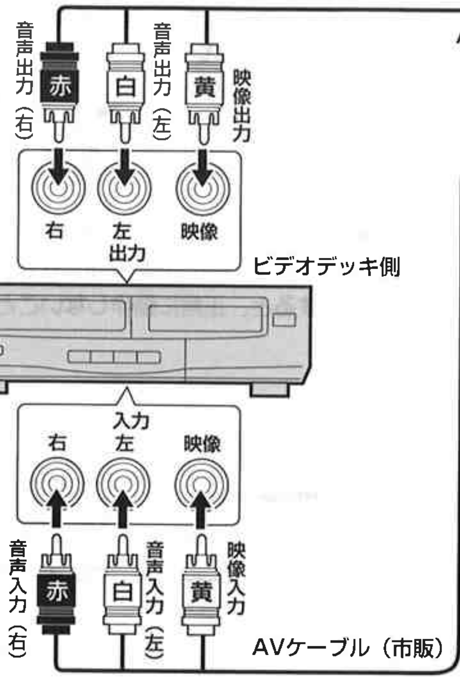
- テレビ側に音声出力端子があることが必要です。
- テレビの1～3チャンネルの音（モノラル）は本機で聴くことができます。

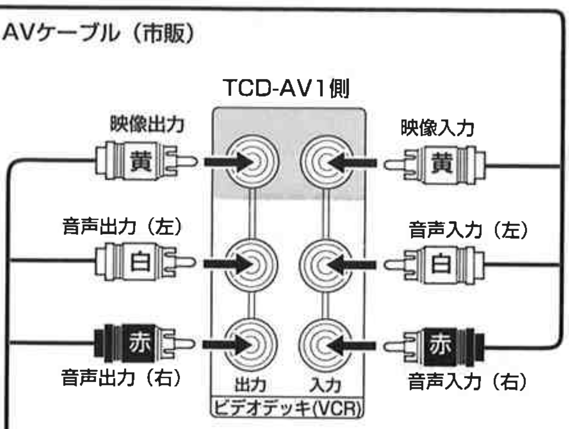
DVDプレーヤーやLDプレーヤーのつなぎかた

AV接続ケーブルを使って、本体（TCD-AV1）のビデオ1入力端子とDVD（LD）プレーヤーの映像/音声（アナログ）出力端子を接続します。



ビデオデッキのつなぎかた

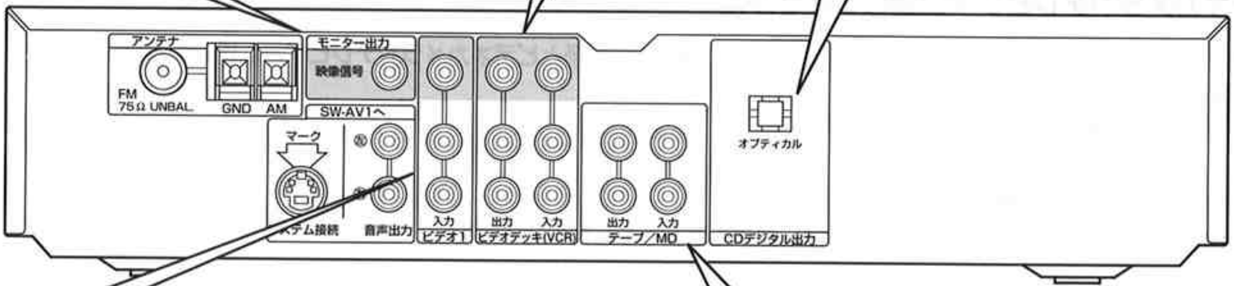




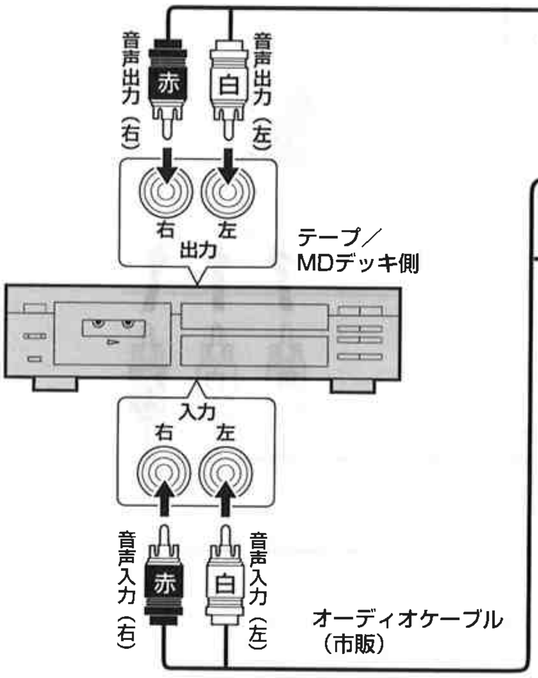
AV接続ケーブルを使って、本体（TCD-AV1）のビデオデッキ（VCR）入力端子とビデオデッキの出力端子を接続し、本体のビデオデッキ（VCR）出力端子とビデオデッキの入力端子を接続します。

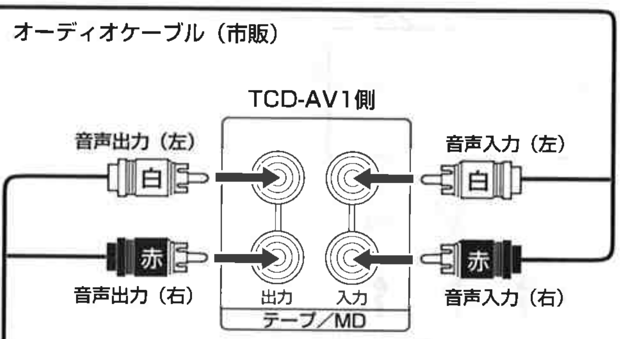
CDデジタル出力端子

詳細は次ページをご覧ください。



テープデッキまたはMDデッキのつなぎかた





オーディオ接続ケーブルを使って、本体（TCD-AV1）のテープ/MD入力端子とテープ（MD）デッキの出力端子を接続し、本体のテープ/MD出力端子とテープ（MD）デッキの入力端子を接続します。

CDデジタル出力端子について

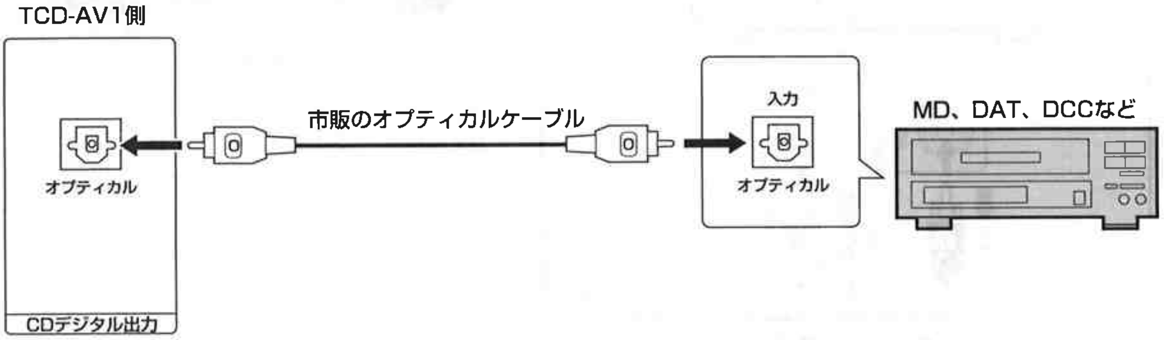
この端子はCDを再生中、オプティカル（光）デジタル信号を出力します。オプティカル入力端子のある録音機器（MD、DAT、DCC）に接続して、CDを録音することができます。

ご注意

オプティカルデジタル出力される信号は、CDのみです。チューナー、テープ、ビデオデッキなどの信号は出力されません。
また音場効果を付加した信号は出力されません。

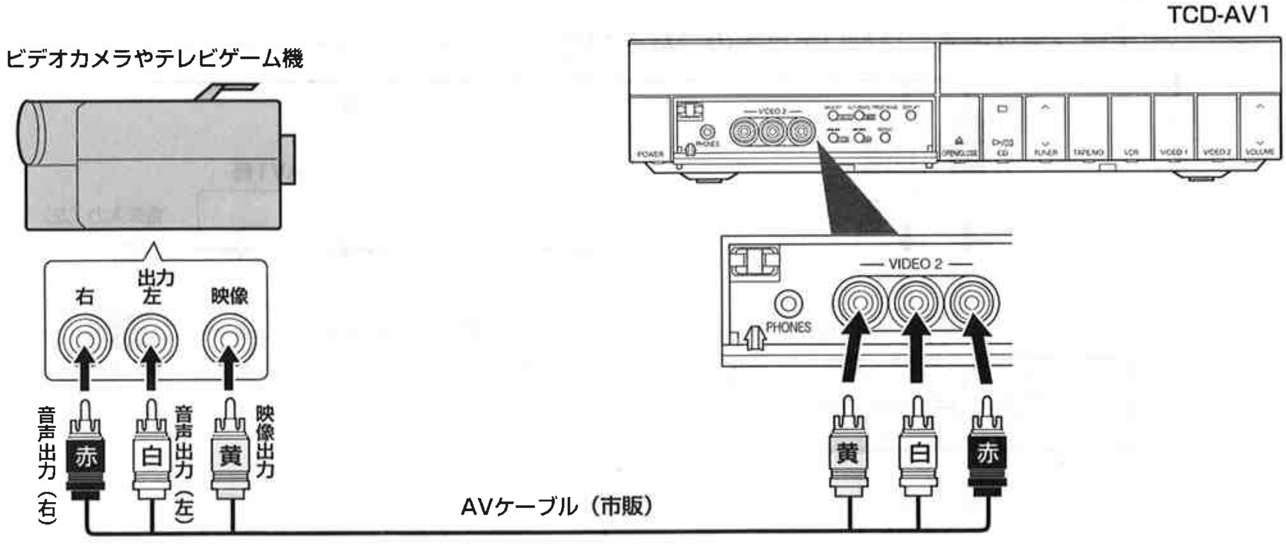
- 接続するときは防塵キャップを外してください。
  使用しないときは、ほこりなどを防ぐため、必ずキャップをしてください。

- 本機のCDデジタル出力端子はEIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさないオプティカルケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。



ビデオカメラやテレビゲーム機のつなぎかた

前面のシーリングパネルを開け、AVケーブルを使って、VIDEO2端子とビデオカメラやテレビゲーム機の映像/音声出力端子を接続します。
黄端子：映像出力端子と接続します。
白端子：音声左出力端子と接続します。
赤端子：音声右出力端子と接続します。
- 接続する機器の音声出力がモノラルの場合は、白または赤どちらかの端子に接続します。

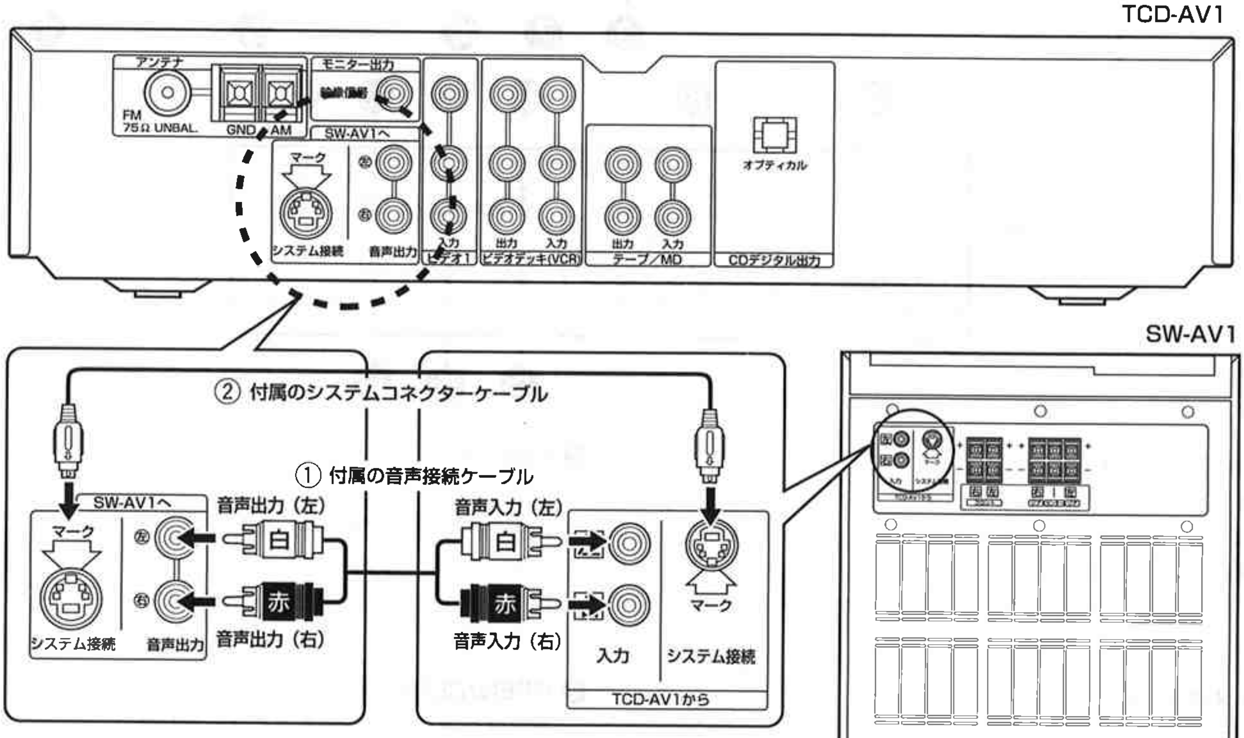


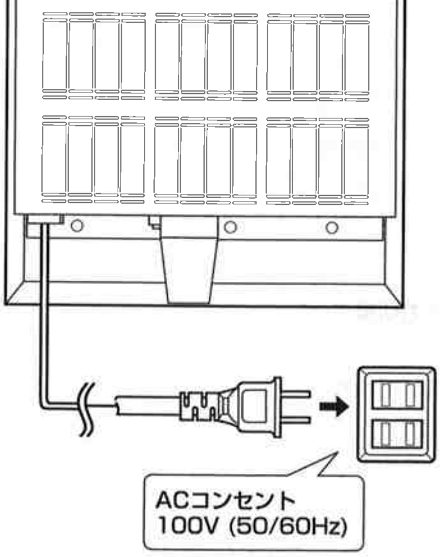
本体とサブ（スーパー）ウーファーのつなぎかた

付属の接続ケーブルを使います。

① 本体（TCD-AV1）の音声出力端子とサブ（スーパー）ウーファー（SW-AV1）の音声入力端子を、音声接続ケーブルで接続します。
- 白のプラグを左（上側）端子へ、赤のプラグを右（下側）端子に接続します。

② 本体（TCD-AV1）のシステム接続端子とサブ（スーパー）ウーファー（SW-AV1）のシステム接続端子を、システムコネクターケーブルで接続します。
- プラグは必ず ⇦ マークを合わせて差し込みます。





ご注意

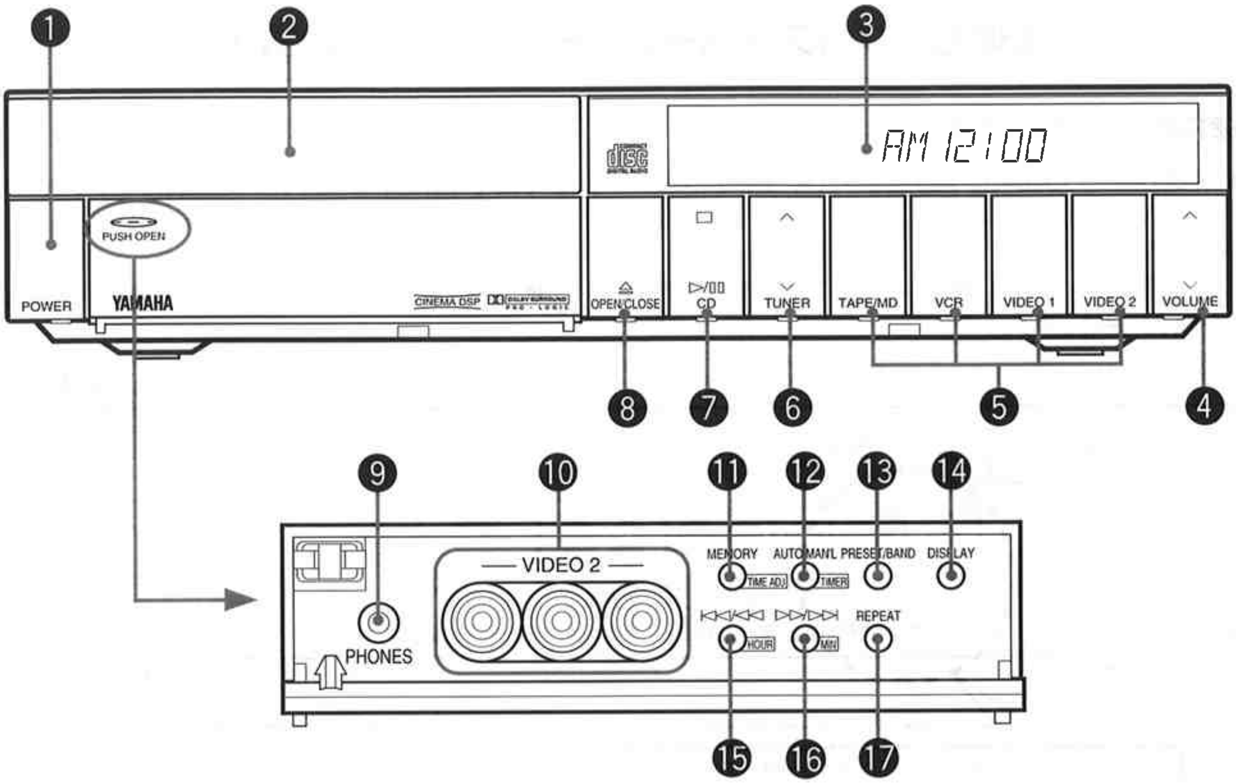
システムコネクターケーブルは傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、音が出なくなったり、火災や感電の原因となります。
特に、ラックやキャスターで踏みつけたりしないようご注意ください。

電源コードの接続

接続が終ったら、もう一度接続を確認してください。
最後にサブ（スーパー）ウーファーの電源コードのプラグを、家庭用ACコンセント（100V 50/60Hz）に差し込みます。

- 電源コードには極性表示（コードの白い線）があります。コンセントに電源プラグを差し換えると音質が変わる場合は、好みの方向でコンセントに差し込んでください。
- 電源コードをつなぐと、ディスプレイの時計表示が点滅します。まず最初に時刻を合わせましょう。23ページをご覧ください。

各部の名称とはたらき



❶ **POWERスイッチ**
本機の電源を入り/切りします。
- 電源が入っても、数秒間は本機のミューティング機能の働きにより音は出ません。
- ミューティング中はプログラムインジケーターが点滅します。

❷ **ディスクトレイ**
CDディスクをセットします。

❸ **ディスプレイ**
操作状態を表示します。

❹ **VOLUMEキー**
音量を調節します。
キーの上側（︿）を押すと音が大きくなり、下側（﹀）を押すと音が小さくなります。

❺ **入力切換キー***
接続した機器を使うときに押します。
TAPE/MDキー：テープ（MD）デッキを再生するとき。
VCR：ビデオデッキを再生するとき。
VIDEO 1：ビデオ1端子に接続したDVD（LD）プレーヤーを再生するとき。
VIDEO 2：VIDEO 2端子に接続したビデオカメラを再生するときや、テレビゲーム機を使うとき。

❻ **TUNERキー***
FM/AM放送を聴くときに押します。
選局するときは、キーの上側（︿）を押すと周波数（プリセット番号）が大きくなり、下側（﹀）を押すと周波数（プリセット番号）小さくなります。

❼ **CDキー***
CDを聴くときに押します。
再生を始めるときは、キーの下側（▷/▯▯）を押します。再生中に押すと一時停止になります。（もう一度押すと再生が再開します。）再生を止めるときは、キーの上側（□）を押します。

❽ **OPEN/CLOSEキー***
ディスクトレイを開閉するときに押します。

メモ
*で示したキーは、本機の電源が切れているときにも、押すと自動的に電源が入ります。

シーリングパネル内

- シーリングパネルを開閉するときは、パネル左上部の「PUSH OPEN」部分を押します。

❾ **PHONESジャック**
ヘッドホンで聴くときはヘッドホンのプラグ（ミニプラグ：3.5mmΦ）を差し込みます。
プラグを差し込むとスピーカーからの音が自動的に消えます。

❿ **VIDEO 2入力端子**
ビデオカメラやテレビゲーム機を使うときに接続します。
18ページをご覧ください。

⓫ **MEMORY（TIME ADJ）キー**
FM/AM放送局をメモリーするときに使います。
また、時刻を合わせるときにも使います。

⓬ AUTO/MANU'L（TIMER）キー

FM/AM放送局を選局するときに、AUTO（自動選局）とMAN'L（手動選局）を切り換えます。また、タイマーを使うときに押します。

⓭ PRESET/BANDキー

FM/AM放送を聴くときに、プリセット選局またはバンド（FM、AM）を選びます。

⓮ DISPLAYキー

ディスプレイの表示を切り換えます。

⓯ ⏮/◁◁（HOUR）キー

CDを再生中は選曲または早戻しします。
また時刻合わせ中は「時」を合わせます。

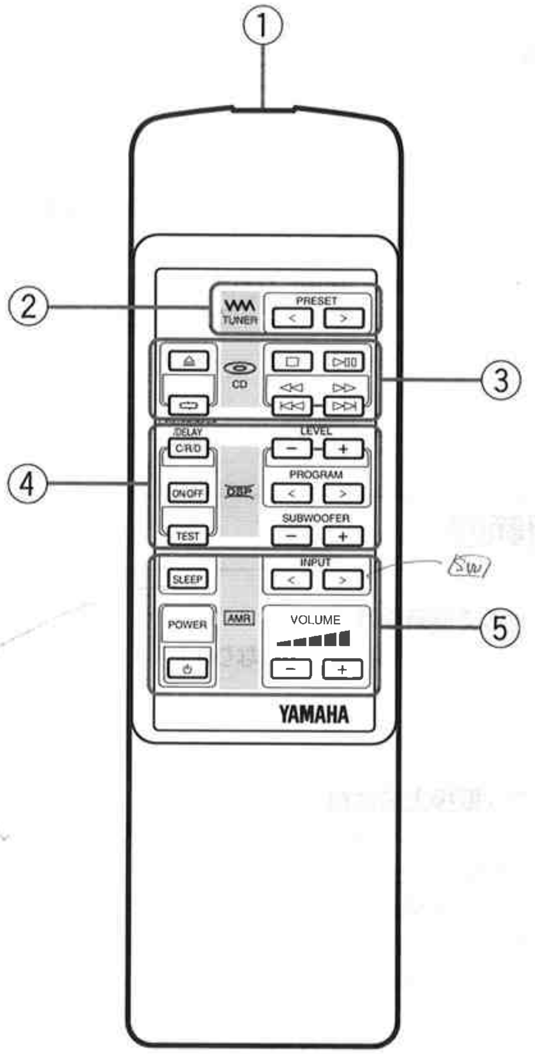
⓰ ▷▷/⏭（MIN）キー

CDを再生中は選曲または早送りします。
また時刻合わせ中は「分」を合わせます。

⓱ REPEATキー

CDをリピート（くり返し）再生するときに押します。

リモコン



① 送信窓

リモコンのコントロール信号を送信します。

② ∿∿ TUNER PRESET<、>キー

FM/AM放送を聴くとき、プリセット局を選びます。

● 電源が切れているときに押すと電源が入り、入力が「TUNER」になります。

③ ◎ CDキー

≜：ディスクトレイを開閉します。
⇔：くり返し再生するときに押します。
□：再生を止めるときに押します。
▷II：再生を始めるときや一時停止するときに押します。
⏮：選曲するときや早戻しするときに押します。
⏭：選曲するときや早送りするときに押します。

● 電源が切れているときに≜、□、▷IIの各キーを押すと、電源が入り入力が「CD」になります。

④ DSPキー

C/R/D：センターおよびリアスピーカーの音量を調整するときや、ディレイタイムを調整するときに使います。

ON/OFF：音場プログラムの効果を入り/切りします。

TEST：テスト信号を入り/切りします。
センターおよびリアスピーカーの音量を調整するときに使います。

LEVEL＋、－：センターおよびリアスピーカーの音量やディレイタイム（遅延時間）を調整するときに使います。

PROGRAM<、>：音場プログラムを選びます。

SUBWOOFER＋、－：サブ（スーパー）ウーファーの音量を調整します。

⑤ AMPキー

SLEEP：スリープタイマーを使うときに押します。

POWER⏻：電源を入り/切りします。

INPUT<、>：再生するソース（CD、チューナー、DVD（LD）プレーヤー、テープ（MD）デッキ、ビデオデッキなど）を選びます。

VOLUME＋、－：＋キーを押すとスピーカーシステム全体の音量が大きくなり、－キーを押すと小さくなります。

リモコンの蓄光機能ついて

本リモコンのキーには蓄光機能があり、暗いところではキーが光ります。
光っている時間は、リモコンを明るいところに置いていた時間に比例します。

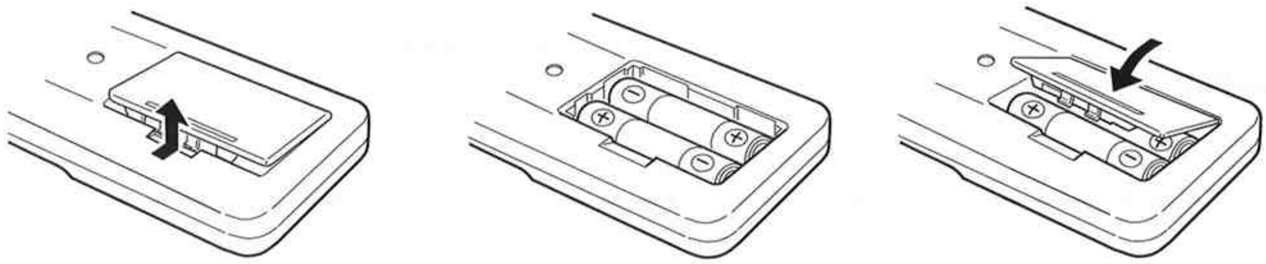
リモコンの準備

乾電池を入れる

❶ 裏ぶたをはずす。

❷ 単3乾電池（2本）の⊕ ⊖を正しく入れる。

❸ 裏ぶたを閉める。

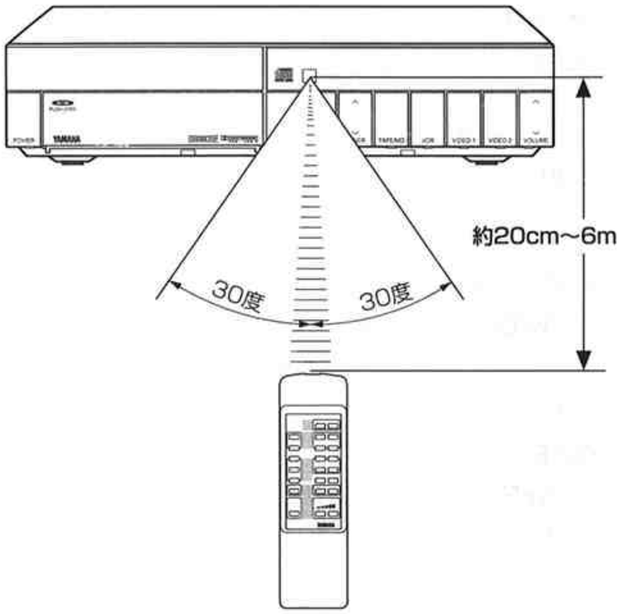


乾電池のご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。
- 種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。同じ形状でも性能や電圧の異なるものがあります。
- 乾電池が使えなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。
- 充電式の乾電池はご使用になれません。
- 液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

リモコンの使用範囲



ディスクトレイが開いている状態では、リモコン操作がしにくくなることがあります。そのときは、ディスクトレイを閉めるか、上下方向の異なった位置からリモコン操作してください。

乾電池の交換時期は

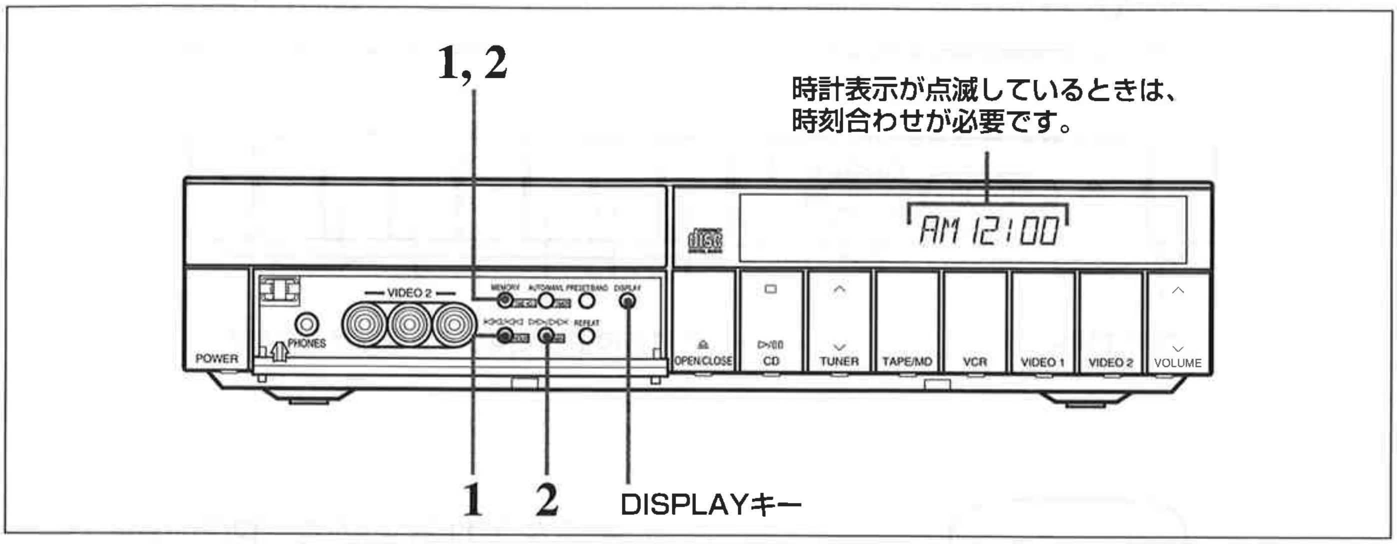
リモコン操作できる距離が短くなりましたら、乾電池を2本とも交換してください。

リモコン取扱上の注意

- 本体のリモコン受光窓とリモコンの間に障害物があると、操作できないことがあります。
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、湿度の高いところには置かないでください。
- 受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。照明または本体の向きを変えてください。
- 他の機器のリモコンを同時に使うと、操作できないことがあります。

時刻の合わせかた

電源コードをACコンセントにつなぐと、ディスプレイの時計表示が点滅します。まず最初に、時刻を合わせてください。



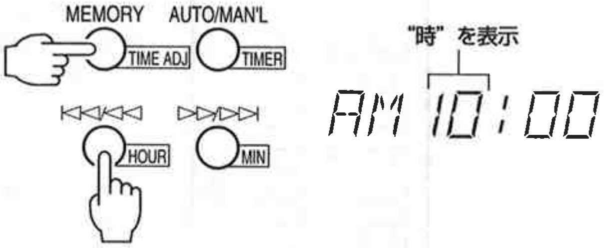
（例）午前10時30分に合わせる

1

TIME ADJキーを押しながら、HOURキーを押して「時」を合わせます。

● 押すごとに1時間ずつ進み、押し続けると連続的に進みます。

希望の時刻で、HOURキーから指を離します。



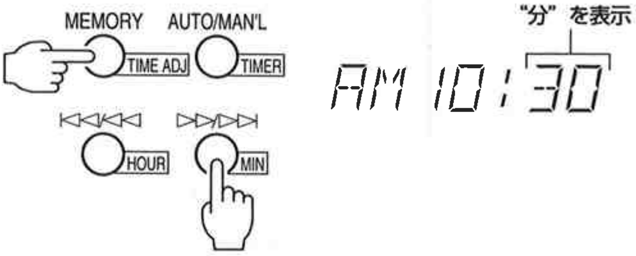
2

TIME ADJキーを押しながら、MINキーを押して「分」を合わせます。

● 押すごとに1分ずつ進み、押し続けると連続的に進みます。
● 「分」を合わせているときは、表示が「59」から「00」になっても「時」は変わりません。

希望の時刻で、TIME ADJキーとMINキーから指を離します。

● 指を離すと「0」秒からスタートします。



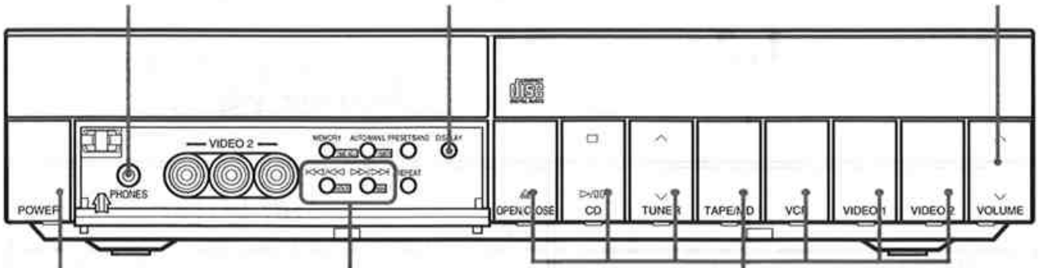
時間を知りたいときや、時刻を修正するときは

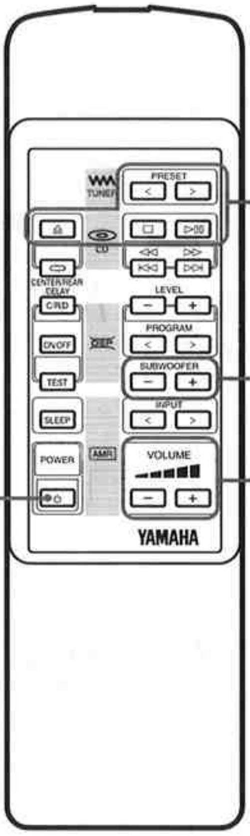
● DISPLAYキーを押します。
約8秒間、時計表示になり、もとの表示に戻ります。
● 時刻を修正するときは、DISPLAY キーを押して時計表示にしてから、上記 **1**、**2** の操作をします。

ご注意

● 電源コードが抜けたり、停電などで5分以上停電状態が続くと時計は停止します。
再び通電すると時計表示が点滅しますので、時刻合わせをし直してください。
● 時計表示が点滅状態になっていると、タイマー再生はできません。

基本操作（電源、音量調節）

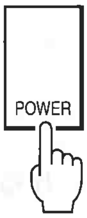




電源を入れる・切る：POWERキー

POWERキーを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

本体



リモコン

ダイレクトパワーオン機能について

電源が切れているときに下記のキーを押すと、電源が入ります。

本体

OPEN/CLOSEキー：

電源が入り、ディスクトレイが開き、入力が「CD」になります。

CDキー、TUNERキー、入力切換キー：

電源が入り、それぞれの入力になります。

リモコン

PRESET＜、＞キー、⏏キー、□キー、▷▯▯キーを押すと電源が入ります。

オートパワーオフについて

CDの停止状態（何のキー操作をしない状態）が約30分以上続くと、自動的に電源が切れます。ただし時刻合わせをしていない場合は働きません。

- CD以外はオートパワーオフ機能は働きません。

ご注意

本機は電源を切っていても、電源プラグがACコンセントに差し込まれていると、メモリー保持や時刻表示のため微弱な電力を消費します（スタンバイ状態）。したがって長期間本機をご使用にならないときは、電源コードをACコンセントから抜いてください。

音量を調節する

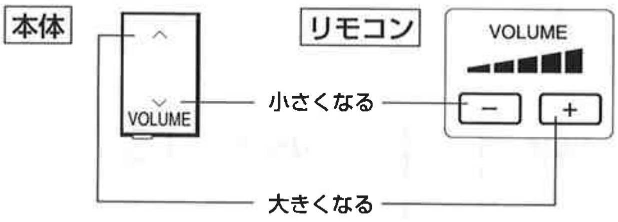
本体

VOLUMEキーの∧側を押すと音が大きくなり、∨側を押すと小さくなります。

リモコン

VOLUMEの+キーを押すと音が大きくなり、−キーを押すと小さくなります。

- 調節範囲は「VOL MIN」から「VOL MAX」の66段階です。



ご注意

CDは音の強さの変化範囲が広くなっています。小さい音から大きな音に急激に変化する音楽などを大きな音量（VOL MAX付近）で長時間再生すると、スピーカーを破損する恐れがありますので、音量に注意してご使用ください。

サブ（スーパー）ウーファーの音量調節

リモコンのSUBWOOFERの+キーを押すとサブ（スーパー）ウーファーの音量が大きくなり、−キーを押すと小さくなります。

- 調節範囲は「SWFR +10」から「SWFR −20」までです。
- キーを押し続けると連続的に調節できます。
  連続的に変化する値がいったん停止する「±0」がメーカープリセット値（初期値）です。

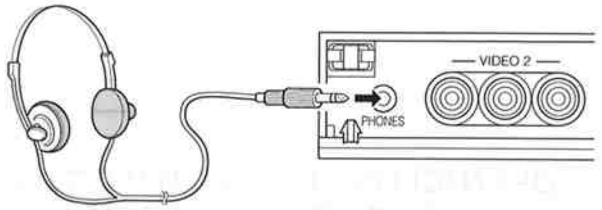
オンスクリーンディスプレイ機能について

テレビ（モニター）を接続しますと、キー操作時に操作状態が表示されます。
表示されるものは
時刻、入力ソース名、音量、使用プログラム名、調整項目、調整レベル、サブ（スーパー）ウーファーの音量、スリープ時間　などです。

ヘッドホンで聴くには

本体のシーリングパネルを開け、ヘッドホンのプラグをPHONESジャックに差し込みます。

- 接続の前には音量を下げてください。
- ヘッドホンをつなぐとスピーカーから音は出ません。
- ヘッドホンは付属していません。イーピーダンス16Ω〜50Ω（推奨32Ω）で3.5mmφステレオミニプラグ付きのものをお使いください。
- ヘッドホンからはフロント（右、左）の音だけが出ます。



ディスプレイの明るさを変えるには

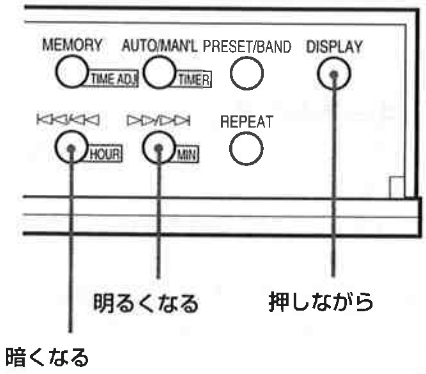
1 DISPLAYキーを2秒以上押して、ディプレイに「DIMMER」を表示させます。

2 DISPLAYキーを押しながら、⏮キーを押すと暗くなり、⏭キーを押すと明るくなります。

調整範囲

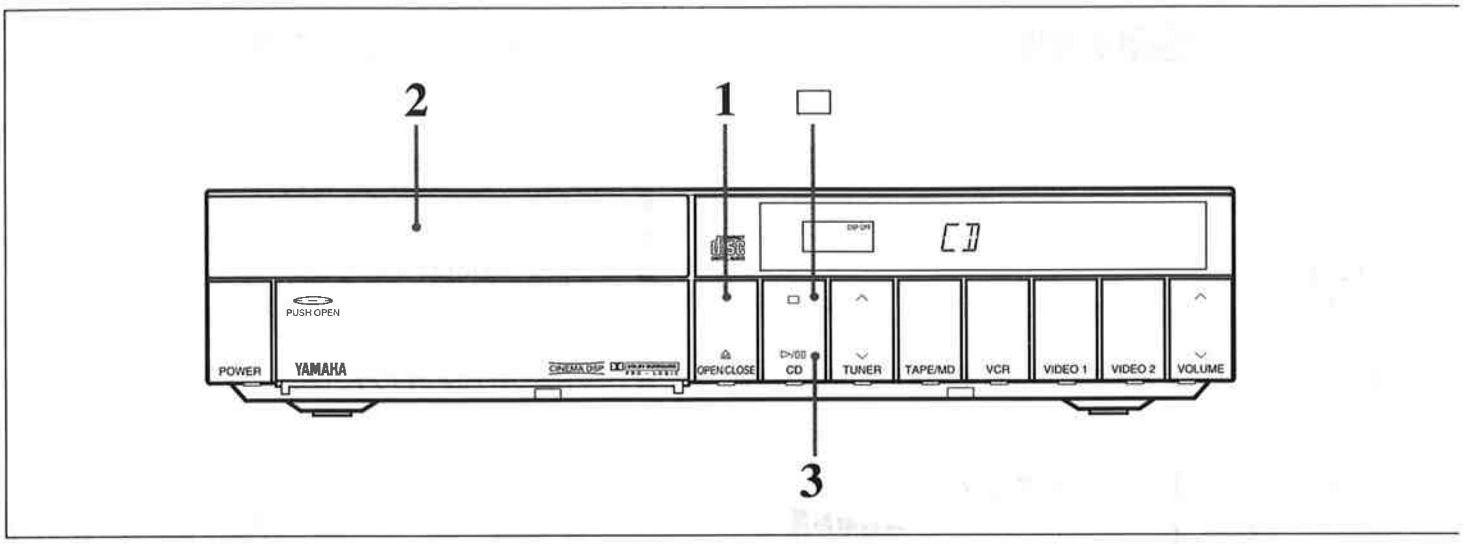
電源が入っているとき：「DIMMER ±0」〜「DIMMER −6」
電源が切れているとき：「DIMMER +3」〜「DIMMER −3」

- 「±0」がメーカープリセット値（初期値）です。



基本操作

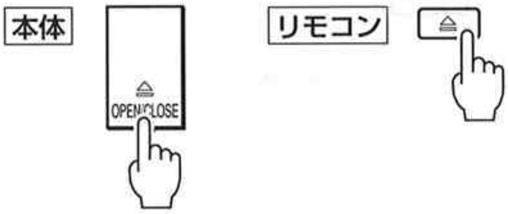
CDを聴く



1

OPEN/CLOSEキー（またはリモコンの⏏キー）を押して、ディスクトレイを開けます。

- 電源が切れているときは、電源が入り入力が「CD」になります。

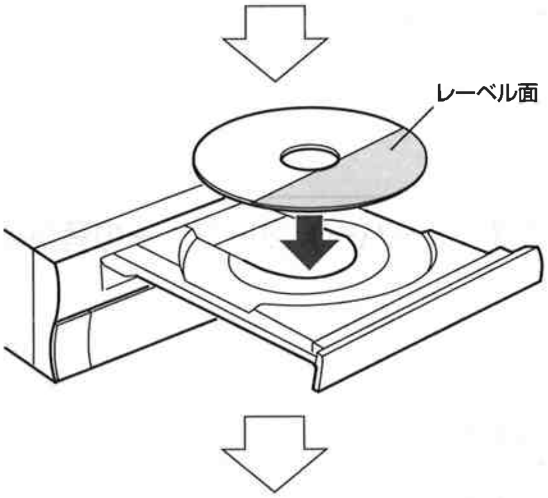


2

CDを載せます。

ディスクのレーベル面（文字のある面）を上にして載せます。

- 8 cmCDは中央の溝に合わせて載せます。

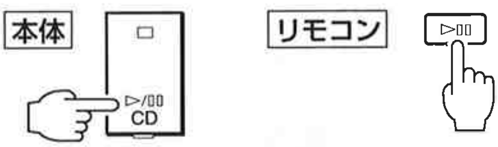


3

▷/❙❙キーを押します。

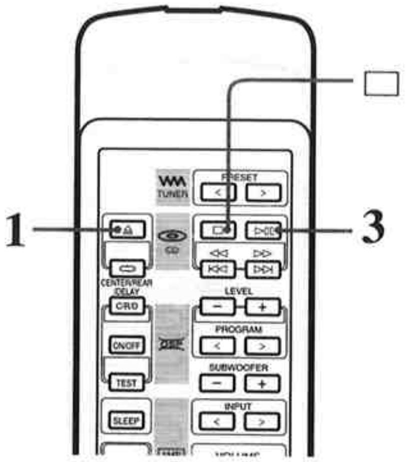
ディスクトレイが閉まり、ディスクの1曲目から再生がスタートします。

- ディスクトレイは手で軽く押しても閉まり、再生がスタートします。
- 他のソース（音源：チューナーや接続した機器）を聴いていたときは、入力がCDに切り換わり、再生がスタートします。
- VOLUMEキーで音量を調節します。



ご注意

- 本機で再生できるディスクは、音楽用CD（コンパクトディスク）のみです。CD-G、CD-ROM、VSD、CDV、DVDディスクなどは再生できません。
- ディスクトレイにセットできるディスクは1枚だけです。2枚以上のディスクは載せないでください。



ダイレクトプレイ

ディスクトレイにCDがセットされていると、▷/▯▯キーを押すだけでCDの再生がスタートします。

電源が切れているときは：
自動的に電源が入り、再生がスタートします。

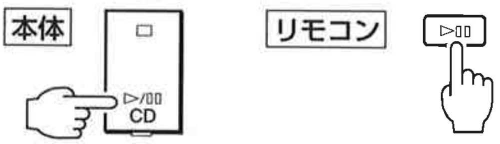
電源が入っているときは：
他のソースを再生中でも、入力がCDに切り換わり再生がスタートします。

- CD再生中に入力を切り換えると、CDは自動的に停止します。

再生を一時的に止めるには

▷/▯▯キーを押します。

- 一時停止中は再生時間表示の「M」が点滅します。
- 再生するときは、もう一度▷/▯▯キーを押します。



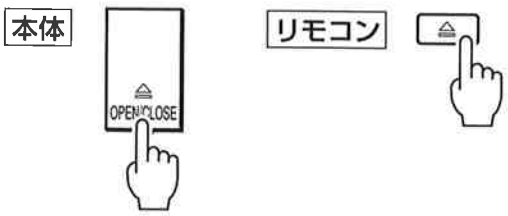
再生を止めるには

□キーを押します。

CDを取り出すには

OPEN/CLOSEキー（またはリモコンの≙キー）を押してディスクトレイを開けます。ディスクを取り出したら、OPEN/CLOSEキー（またはリモコンの≙キー）を押してディスクトレイを閉めます。

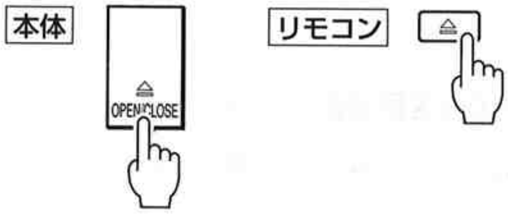
- POWERキーを押すと、ディスクトレイが閉まり、電源が切れます。

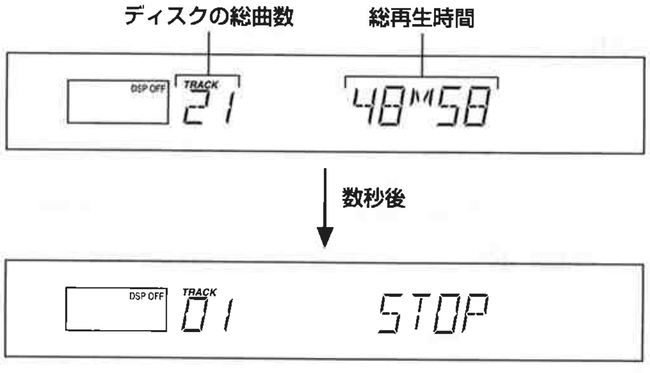


CDの総曲数と総再生時間を知るには

CDをディスクトレイに載せたあと、OPEN/CLOSEキー（またはリモコンの≙キー）を押すと、ディストレイが閉まり「STOP」を表示したあと、ディスクの総曲数と総再生時間が数秒間表示されます。

- 再生するときは▷/▯▯キーを押します。



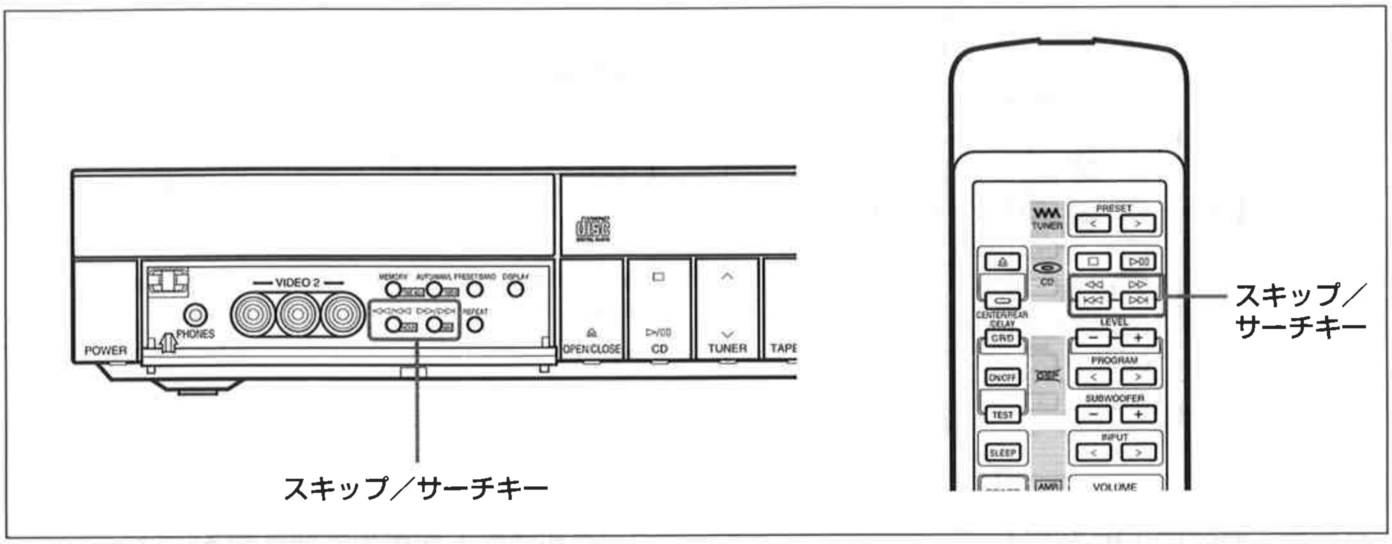


ご注意

CDをディスクトレイに入れたまま、本機を傾けたり移動しないでください。

CDを聴く

CDの好きな曲から聴いたり、聴き直したり、再生を早送り/早戻しすることができます。



曲を飛び越して聴くには：スキップ

次の曲の頭から聴くには

再生中に▷▷| キーをタッチ押し（1回）押します。

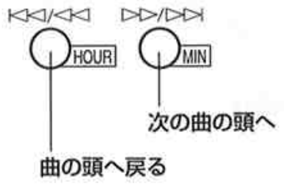
押した回数だけ先の曲の頭に移り再生します。

再生中の曲を聴き直すには

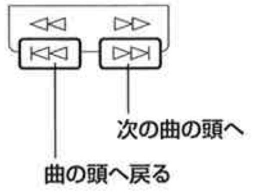
再生中に|◁◁キーをタッチ押しします。

一回押すと再生中の曲の頭に戻り、押すごとに前の曲の頭に移り再生します。１曲目まで戻ると１曲目を再生します。

本体



リモコン



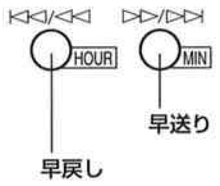
メモ

- 停止中も曲を選ぶことができます。聴きたい曲番が表示されたら、▷/▯▯キーを押して再生を始めます。
- ディスクトレイが開いているときも選曲できます。▷/▯▯キーを押すとディスクトレイが閉まり、選んだ曲から再生がスタートします。

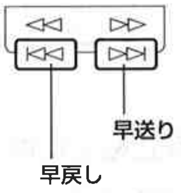
聴きたいところをさがすには：サーチ

再生中に |◁◁ または ▷▷| キーを押し続けます。

本体



リモコン

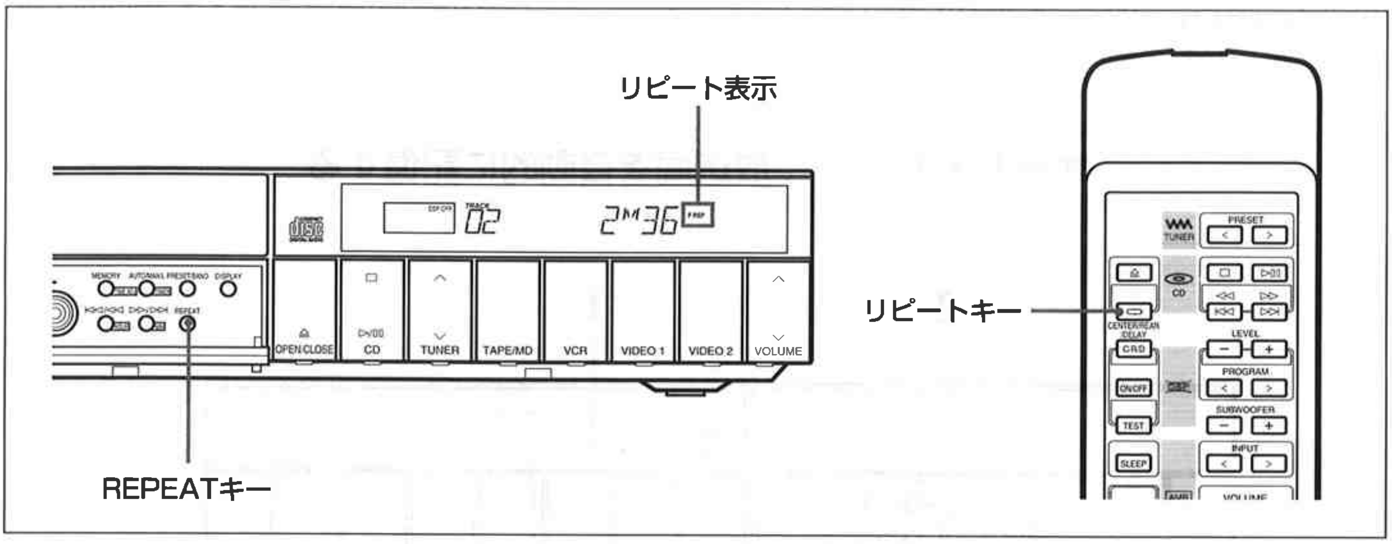


聴きたいところで、キーから指を離します。

メモ

一時停止中もサーチができます。ただし音は出ません。

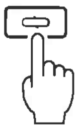
くり返し聴くには：リピート



REPEATキー（またはリモコン⇔キー）を押します。

キーを押すごとに、ディスプレイのリピート表示が切り換わります。

本体

リモコン 

REP：　シングルリピート（1曲）
再生中の曲をくり返し再生します。

↓

F REP：フルリピート（全曲）
ディスクの全曲をくり返し再生します。

↓

消灯：　リピートを止める

FM/AM放送を聴く

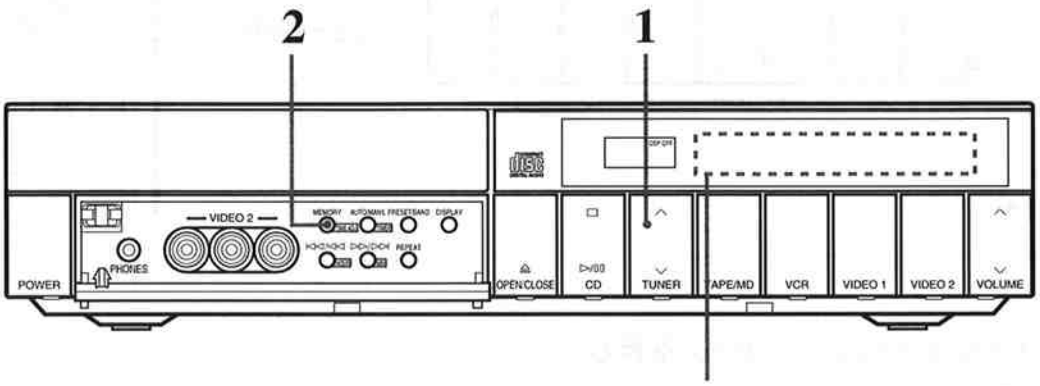
まず最初に放送局をメモリー（記憶）させます。

A～Eのグループにそれぞれ8局、合計40局をメモリーすることができます。メモリーさせておけば、あとは簡単に選曲（プリセット選局）することができます。

メモリーの方法には、オートメモリーとマニュアルメモリーの2種類があります。

オートメモリーが速くて簡単ですが、電波の弱い放送局や、メモリー内容の一部を変えたいときはマニュアルメモリーをしてください。

オートメモリー ：放送局を自動的に記憶する



オートメモリーするごとにプリセット番号、バンド、周波数を表示します。また、AUTOとMEMORYが点滅します。

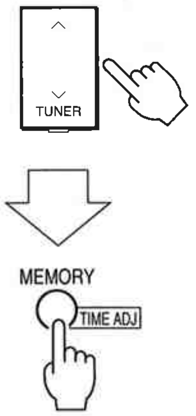
本体のキーを使います。

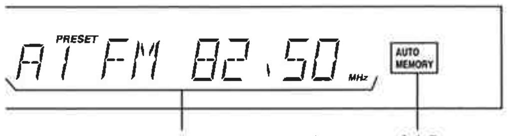
1 **TUNERキーを押します。**

● 電源が切れているときは電源が入り、入力が「TUNER」になります。（ダイレクトプレイ機能）

2 **シーリングパネルを開け、MEMORYキーを約2秒間押し続けます。**

オートメモリーが始まります。





FM 82.5 MHzの放送局が“A1”にメモリーされた場合

点滅

オートメモリー動作について

● FM局をA1から順にメモリーし、次にAM局をメモリーします。

● 周波数の低い放送局から順番にメモリーします。

● 最大40局までメモリーできますが、周囲の妨害電波も放送局とみなしてメモリーすることがあり、FM局だけで40局に達してしまうこともあります。このような電波状態でAM局をメモリーするときは、次ページのマニュアルメモリーを行ってください。

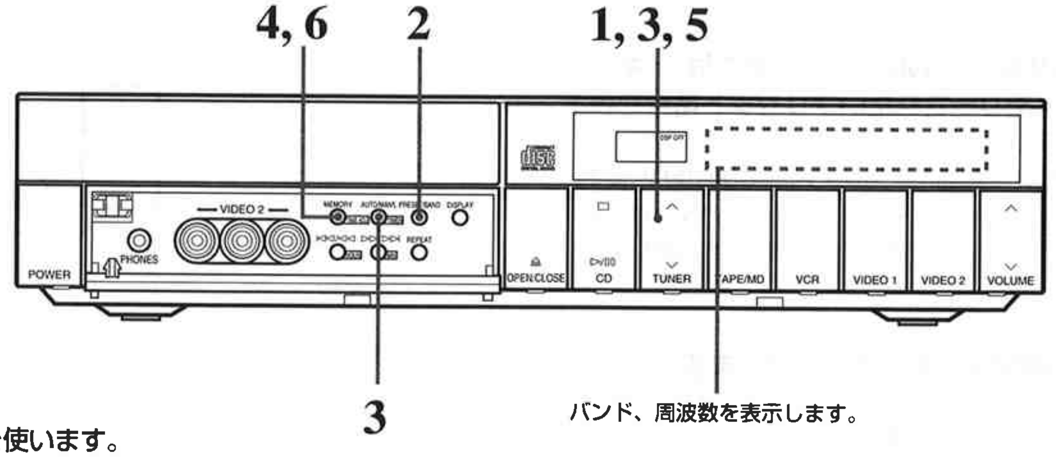
● メモリーが終わるとディスプレイの「MEMORY」の点滅が消え、最初にメモリーした放送局（A1）が聴こえます。（「AUTO」は点灯します。）

● A～Eのグループ内で余ったプリセット番号や、余ったグループのプリセット番号には、そのバンドのスタート周波数（一番低い周波数）がメモリーされます。

● 放送局をメモリーさせたあと、もう一度オートメモリーさせると、前にメモリーされていた放送局は消えます。

マニュアルメモリー ：放送局を手動で記憶する

電波が弱くてオートメモリーできないときや、反対に電波が強すぎて周波数がずれるとき、またはメモリー内容の一部を変えたいときは、マニュアルメモリーをしてください。



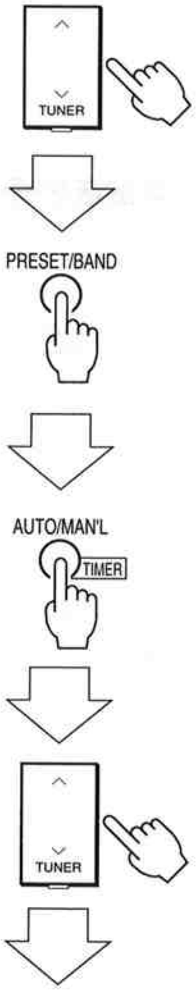
本体のキーを使います。

1 TUNERキーを押します。

2 PRESET/BANDキーを何回か押してFMまたはAMを表示させます。
- ディスプレイの「PRESET」が消えていることを確認してください。

3 「オートチューニング：自動選局」
AUTO/MAN'Lキーを押して「AUTO」を点灯させ、TUNER∧、∨キーを押して選局します。
- ∧キーを押すと、周波数が高くなる方向に放送局を探し、∨キーを押すと低くなる方向に放送局を探します。
- 放送局があると停止します。

「マニュアルチューニング：手動選局」
AUTO/MAN'Lキーを押して「AUTO」を消灯させ、TUNER∧、∨キーを押して選局します。
- ∧キーを押すごとに1ステップずつ（FM：0.05MHz、AM：9kHz）周波数が高くなり、∨キーを押すごとに低くなります。
- 押し続けると周波数が連続して変わります。

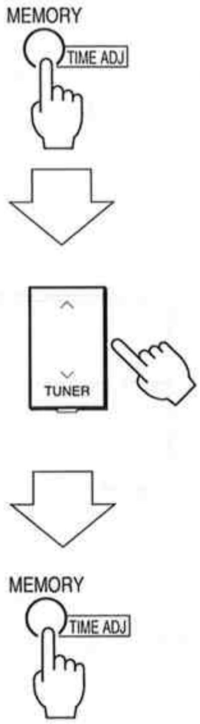


＊メモリーしない場合は、これで操作は終わりです。

メモリーさせる場合は、次ページの操作をしてください。

FM/AM放送を聴く

マニュアルメモリーのつづき



4 MEMORYキーを押します。

5 5秒以内に、TUNER∧キーまたは∨キーを押してメモリーさせたいプリセット番号を表示させます。
- キーを押し続けると、グループ単位で切り換わります。
  ∧キー：A→B→C→D→E→の順に切り換わります。
  ∨キー：E→D→C→B→A→の順に切り換わります。

6 もう一度MEMORYキーを押します。
- 選んだ番号に選んだ放送局がメモリーされました。
- 「PRESET」と「MEMORY」の点滅が止まり、「MEMORY」が約1秒間点灯して消えます。
- 他の局をメモリーするときは、手順2～6の操作をくり返します。

FM/AMステレオ放送を聴くには

AUTO/MAN'Lキーを押して、ディスプレイに「AUTO」を点灯させます。

- ステレオ放送を受信すると、ディスプレイに「ST」（ステレオ）が点灯します。
- 電波の弱い局ではステレオ放送でも「ST」が点灯せず、雑音が聴こえることがあります。そのような場合は、AUTO/MAN'Lキーを押して「AUTO」を消灯させます。モノラル受信になりますが、雑音を減らすことができます。

メモ

マニュアルメモリーの手順3で、オートチューニングするとステレオで受信し、マニュアルチューニングするとモノラルで受信します。

テレビ放送を聴くときは

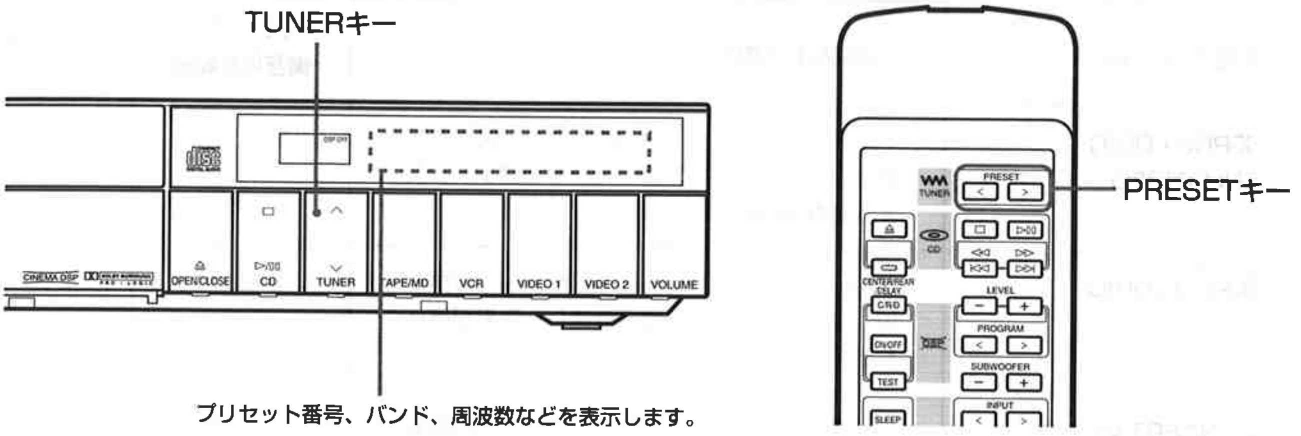
PRESET/BANDキーを何回か押してFMにしてから、下記の周波数に合わせると、テレビ放送（1から3チャンネル）が受信できます。テレビ放送はオートメモリーできません。必要に応じてマニュアルでメモリーしてください。

チャンネル	周波数
1	95.75 MHz
2	101.75 MHz
3	107.75 MHz

- テレビのステレオ放送を受信しても音声はモノラルになります。
- FM放送とテレビ放送では音声レベルが異なります。これは放送局の方式の違いによるものです。
- 本機のテレビ受信回路はFM受信回路と兼用しています。このため地域によってはテレビの2または3チャンネルの音声にFM放送が混信することがあります。

メモリーした放送局を聴くときは：プリセット選局

あらかじめ「オートメモリー」「マニュアルメモリー」（30〜32ページ）をご覧になり、放送局をメモリーさせておきます。メモリーされていないとプリセット選局はできません。



リモコンのPRESET<または>キーを押して、聴きたい局をメモリーさせたプリセット番号を表示させます。

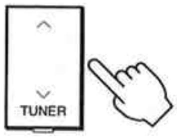
- 電源が入り、最後に聴いていた局を受信します。続けて<または>キーを押すと自動的にプリセット選局になります。（ダイレクトプレイ機能）

本体で操作するときは

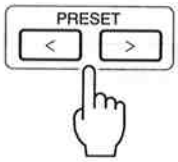
TUNER ∧ または ∨ キーで選局します。

- ディスプレイに「PRESET」が表示されていないときは、PRESET/BANDキーを何回か押して、「PRESET」を表示させます。

本体



リモコン



メモ

キーを押し続けると、グループ単位で切り換わります。

- ＞（∧）キー：A→B→C→D→E→の順に切り換わります。
- ＜（∨）キー：E→D→C→B→A→の順に切り換わります。
- 各グループの最後に聴いていた局のプリセット番号を表示します。

チューナーのメモリー保持について

電源コードをコンセントから抜いても、約一週間はメモリーした内容は消えません。ただし一週間以上抜いたままにしておきますと、内容が消えることがあります。そのときは、メモリーをし直してください。

ご注意

- テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。
- コンピューターやワープロなどのデジタル機器の近くで受信すると、雑音が入ることがあります。このようなときは、本機とデジタル機器との距離を離してください。

音場効果を楽しむ

本機は映画館やコンサートホールで体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタルサウンドフィールドプロセッサーを搭載しています。8種類の音場プログラムの中から、再生するソースに合ったプログラムを選んで、ヤマハCINEMA DSPの世界をお楽しみください。

各音場プログラムの特長

No	音場プログラム	特長および最適ソース	ディレイタイム調整可能範囲	初期値
1	ドルビー プロ ロジック DDPRO LOGIC エンハンスト ENHANCED	ドルビープロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に広げ35mm映画館のマルチサラウンドシステムを再現します。	15~30ms	20ms
2	ドルビー プロ ロジック DDPRO LOGIC	ドルビーサラウンドで記録されたソースの再生用。セパレーションに優れ安定した効果が得られます。	15~30ms	20ms
3	コンサート ビデオ CONCERT VIDEO	ロック/ジャズなどのライブコンサートの雰囲気を再現します。	1~100ms	28ms
4	モノ ムービー MONO MOVIE	古典的な映画館の音場を再現します。程良い響きと広がりがあり、懐かしい名画の再生に適しています。	1~100ms	20ms
5	ロック コンサート ROCK CONCERT	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場を再現します。	1~100ms	17ms
6	コンサート ホール CONCERT HALL	響きの豊かな中規模円形ホールの音場効果が得られます。	1~100ms	30ms
7	ディスコ DISCO	ホットなディスコの雰囲気を再現します。広がり感よりも集中したエネルギー感に特長があります。	1~100ms	14ms
8	スタジアム STADIUM	野外スタジアムの音場を再現します。	1~50ms	45ms

- 実測された音場データを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。
- プログラムNo.1とNo.2は方向性強調回路を使用していますので、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。
- プログラムNo.3から8はセンタースピーカーから音は出ません。

＊ ドルビープロ・ロジックはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、PRO LOGIC及びダブルD記号DDはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

音場プログラムの選びかた

リモコンのPROGRAM<、>キーを使います。

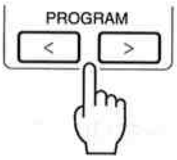
キーを押すごとに、音場プログラムが次のように切り換わります。

DDPRO LOGIC ENHANCED ←→ STADIUM
↕ DDPRO LOGIC ↕ DISCO
↕ CONCERT VIDEO ↕ CONCERT HALL
↕ MONO MOVIE ←→ ROCK CONCERT

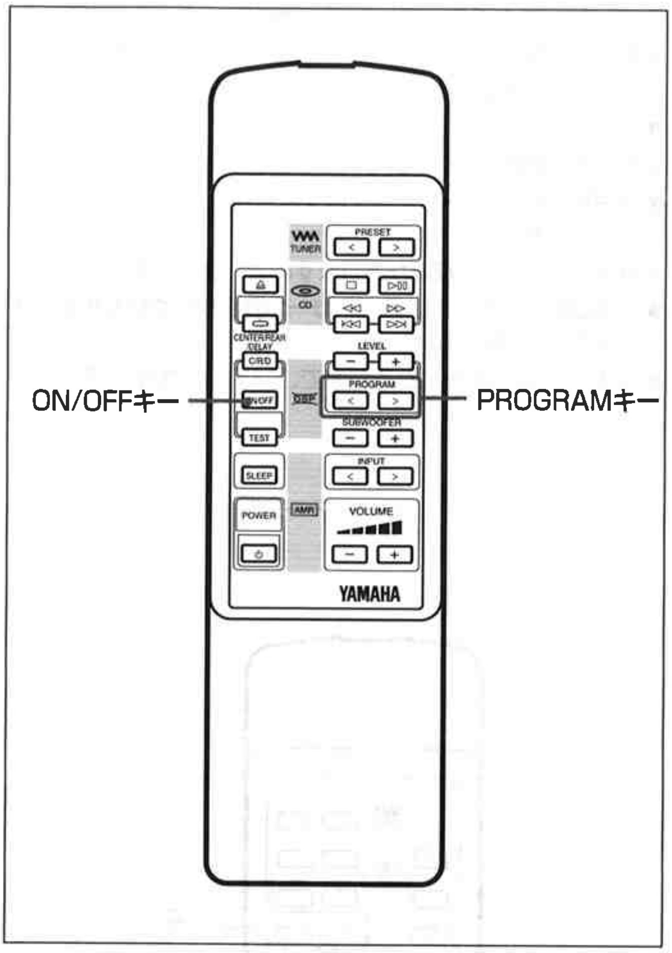
(DDPRO LOGIC ENHANCED ↔ DDPRO LOGIC ↔ CONCERT VIDEO ↔ MONO MOVIE ↔ ROCK CONCERT ↔ CONCERT HALL ↔ DISCO ↔ STADIUM ↔ DDPRO LOGIC ENHANCED)

お聴きになるソース（音源）の雰囲気にあった音場プログラムを選んでください。
選んだプログラムは、プログラムインジケーターとディスプレイに表示されます。

- ソースごとに、最後に使用していたプログラムがメモリーされますので、ソースを切り換えるごとにプログラムも自動的に切り換わります。



プログラムインジケーター



音場効果を入り/切りするには

リモコンのON/OFFキーを押すごとに、“プログラムを使った再生/使わない再生”が切り換わります。
「DSP OFF」のときは、“プログラムを使わない再生”=通常のステレオ再生になります。

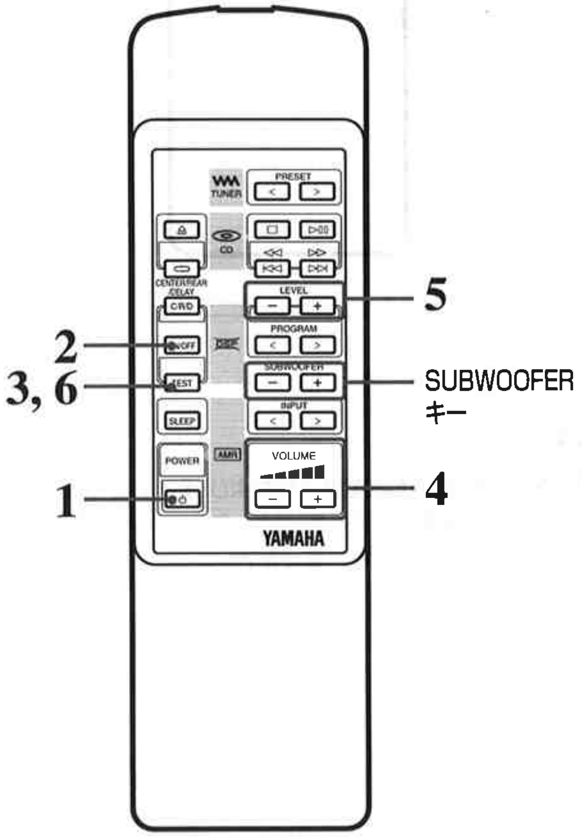
メモ

DD PRO LOGIC ENHANCEDおよび DD PRO LOGICの音場効果を充分に発揮させるためには、各スピーカーの音量合わせが必要です。次ページをご覧ください。

スピーカーの音量調整

ドルビーサラウンド処理されたソース（音源）を再生するときにDDPRO LOGIC ENHENCEDやDDPRO LOGICの音場効果を充分に発揮させるためには、フロント、センターおよびリアスピーカーの音量が、同じになるように調整する必要があります。
また、他の音場プログラムで再生するときも、スピーカーの音量が調整されていますと、それぞれの音場の持ち味を引き出すことができます。
本機はテストトーン機能がありますので、調整は簡単です。

- 一度調整しておけば、スピーカーの置きかたや部屋を変えない限り、再調整の必要はありません。
- 調整は日常お聴きになる位置で、リモコンを使って行います。



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 ディスプレイに「DSP OFF」が表示されているときは、ON/OFFキーを押します。

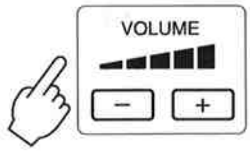
3 TESTキーを押します。

- 自動的にDDPRO LOGIC が選ばれます。

4 VOLUME＋または－キーを使って、テストトーンの音量を調整します。

- テストトーン（ザー音）が約2.5秒ずつ、各スピーカーを巡回して聞こえます。

フロント左スピーカー「LEFT」 → センタースピーカー「CENTER」 → フロント右スピーカー「RIGHT」 → リア左右スピーカー「SURROUND」 → フロント左スピーカー「LEFT」



- テストトーンが聴こえない場合や、表示と聴こえるスピーカーが異なる場合は、一度音量を下げ、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

5 **LEVEL＋キーまたは－キーで、各スピーカーからの音量が同じになるように調整します。**

センタースピーカーの音量調整

「CENTER」が表示されているときに、LEVEL＋または－キーを押して、センター スピーカーの音量がフロントスピーカーの音量と同じになるように調整します。

● 調整できる範囲は＋10～－20です。
● 調整中は、センタースピーカーからテストトーンが出続けます。

リアスピーカーの音量調整

「SURROUND」が表示されているときに、LEVEL＋または－キーを押して、リアスピーカーの音量がフロントスピーカーの音量と同じになるように調整します。

● 調整できる範囲は＋10～－20です。
● 調整中は、リアスピーカーからテストトーンが出続けます。

メモ

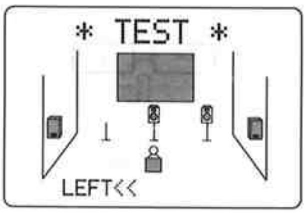
キーを押し続けると連続的に調整できます。
連続的に変化する値がいったん停止する「±0」がメーカープリセット値（初期値）です。

6 **調整が終わったら、TESTキーを押します。**

● テストトーンが消えます。

メモ

調整はモニター画面を見ながら行うことをおすすめします。モニター画面では、テストトーンが出ているスピーカーが点滅しますので、視覚的にわかりやすく調整できます。（オンスクリーンディスプレイ機能）

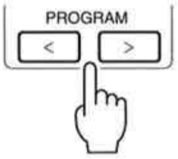


＊モニター画面表示では、テストトーンの出ているスピーカーが点滅します。

再生音を聴きながら調整する

テストトーンで調整したあとでも、実際に音場プログラムを使って再生される音を聴きながら、センターおよびリアスピーカーの音量を調整することができます。

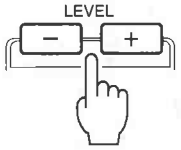
1 **音場プログラムを使って再生します。**



2 **C/R/Dキーを何回か押して、「CENT」または「REAR」を表示させます。**

3 **LEVEL＋または－キーで音量を調整します。**

- 調整できる範囲は＋10～－20です。
- キーを押し続けると連続的に調整できます。
  連続的に変化する値がいったん停止する「±０」がメーカープリセット値（初期値）です。



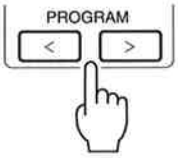
ご注意

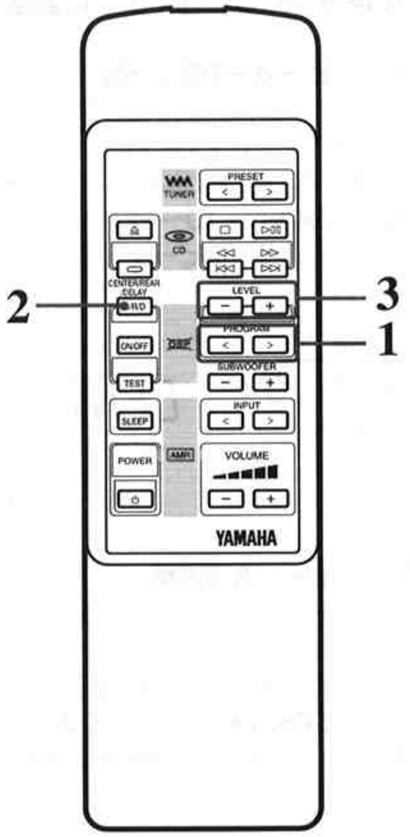
センタースピーカーの音量調整ができるのは、DDPRO LOGIC ENHANCEDおよびDDPRO LOGICのみです。

ディレイタイム（遅延時間）を調整する

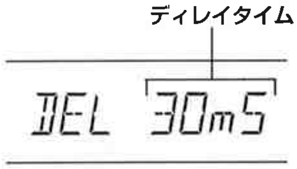
フロントスピーカーの音からリアスピーカーのサラウンド音が始まるまでの時間（ディレイタイム）を調整することができます。ディレイタイムを変更すると、音源までの距離感や、空間の大きさ、音の広がり感などを微妙に変えることができます。必要に応じてお好みの音場に調整してください。

1 **音場プログラムを使って再生します。**

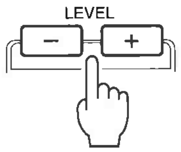




2 **C/R/Dキーを何回か押して、「DEL」を表示させます。**



3 **LEVEL＋または－キーでディレイタイムを調整します。**



- ディレイタイムの値を大きくすると大きめの音場が、小さくすると小さめの音場が創造できます。
- 選んでいるプログラムにより、調整できる範囲が異なります。調整可能範囲は34ページの表をご覧ください。
- キーを押し続けると連続的に調整できます。
  連続的に変化する値がいったん停止する表示がメーカープリセット値（初期値）です。

メモ

ディレイタイムを調整中は再生音が途切れますが、これは故障ではありません。

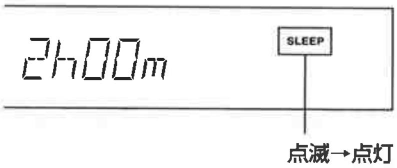
聴きながらおやすみになるには（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れるので安心です。

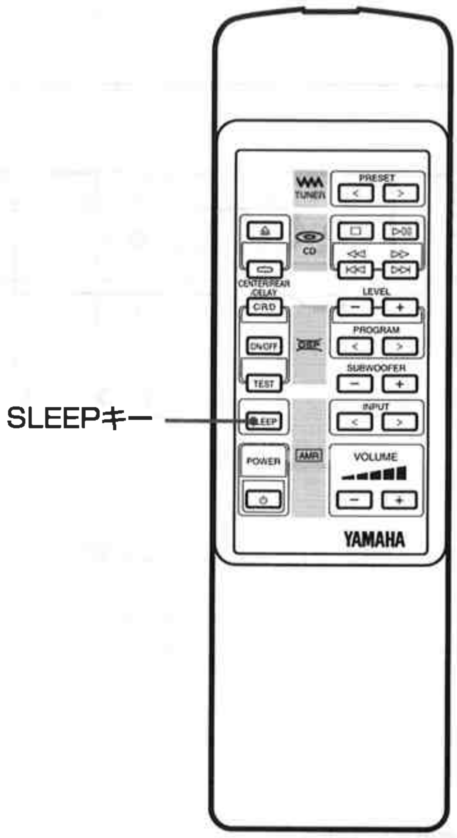
1 **CDまたはFM/AM放送（あるいは接続した機器）を選びます。**

2 **リモコンのSLEEPキーを押します。**

スリープ時間は自動的に2時間（2h00m）に設定されます。
（「SLEEP」が点灯、約4秒たつと、もとの表示に戻ります。）



これで本機の電源は2時間後に自動的に切れます。



ご注意

手順1で接続した機器を選び再生しているときは、本機の電源は切れますが、接続した機器の電源は切れませんのでご注意ください。

スリープ時間を変えるには

SLEEPキーを押して希望の時間を選びます。
SLEEPキーを押すたびに、次のようにスリープ時間が切り換わります。
2h00m→1h30m→1h00m→0h30m→OFF SLEEP

スリープタイマーの残り時間を確かめるには

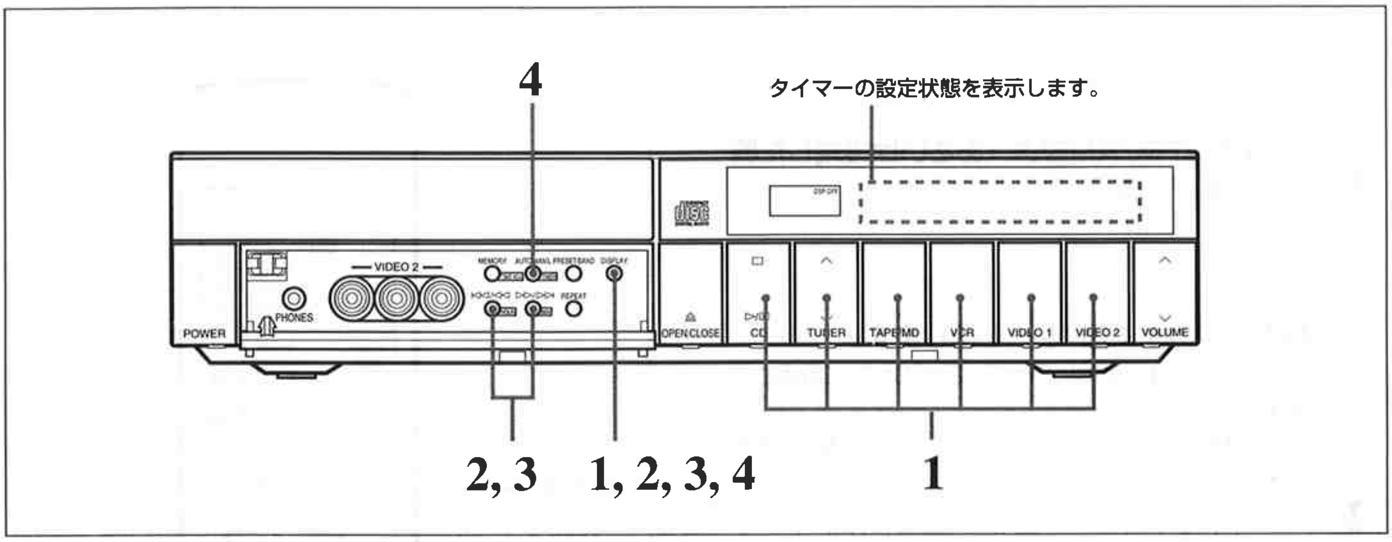
SLEEPキーを押します。

スリープタイマーを止めるには

SLEEPキーを押して「OFF SLEEP」を表示させます。
または、POWERキーを押して電源を切ります。

スリープタイマーとタイマー再生を同時に使うときは
スリープタイマーをかけたあとでも、タイマー再生（次ページ）を設定することができます。
この場合、タイマー再生をセットしたあと、電源は入れたままにしておきます（41ページの手順4）。スリープタイマーが働いて電源が切れたあと、設定した時間になるとタイマー再生が始まります。
ただし、スリープ時間内にタイマー再生が設定されているとタイマーは動作しません。ご注意ください。

タイマー再生するには



タイマーを使う前に、現在の時刻が合っているか確かめてください。

- DISPLAYキーを押すごとに右のように表示が切り換わります。（タイマー設定では頻繁に使うキーですので、良くご理解ください。）

＊ 各設定表示は、約８秒間何の操作もしない場合は、自動的に次の表示に切り換わります。

電源が切れているとき

時計表示 → 入力設定表示＊ → ON TIME設定表示＊ → OFF TIME設定表示＊ →（時計表示に戻る）

電源が入っているとき

入力表示 → 時計表示（約７秒後）→（入力表示に戻る）
入力表示 → 時計表示（約７秒後）→ 入力設定表示＊ → ON TIME設定表示＊ → OFF TIME設定表示＊ →（入力表示に戻る）

タイマー再生の準備をします。

- CDの場合：CDをディスクトレイにセットしておきます。
- 音量を調節しておきます。
- 必要に応じて音場プログラムを選んでおきます。

1

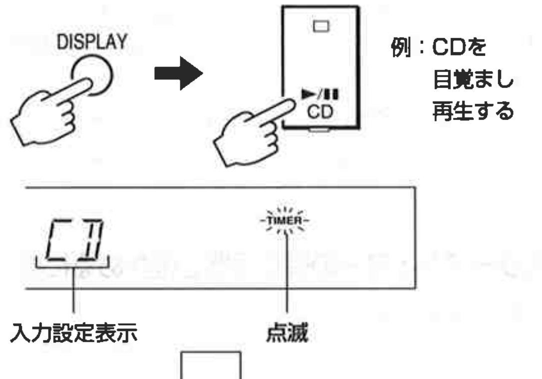
DISPLAYキーを押して、入力設定表示にします。

- 電源が入っているときはDISPLAYキーを２回続けて押します。

⇩

入力切換キーでソースを選びます。

- TUNERの場合：「TUNER」にしたあとに希望の局を選局します。（30〜33ページ）



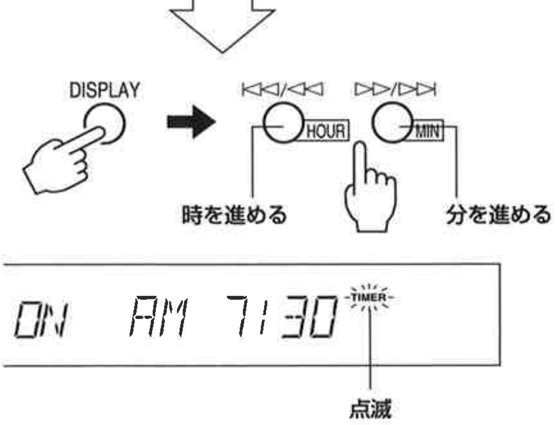
2

８秒以内にDISPLAYキーを押して、ON TIME設定表示にします。

⇩

オンタイム（開始時間）を設定します。

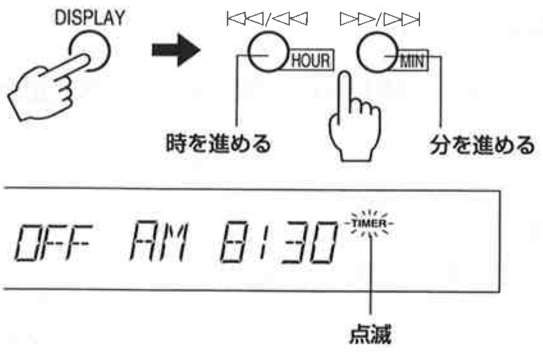
HOURキー：押すごとに「時」が進みます。
MINキー：押すごとに「分」が進みます。



3

8秒以内にDISPLAYキーを押して、OFF TIME設定表示にします。

- オンタイムを設定すると、オフタイム（終了時刻）は自動的に1時間後に設定されます。必要に応じてHOURキーとMINキーを使って、オフタイムを設定します。



4

8秒以内にタイマーをセットします。

すぐにタイマーをセットする場合

TIMERキーを押します。

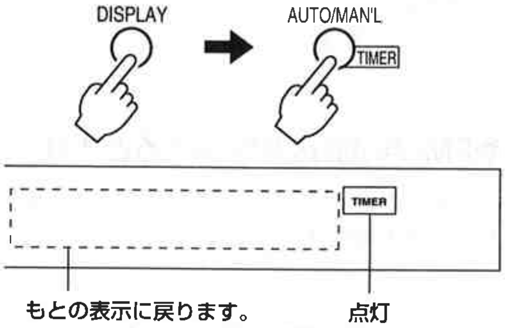
- 電源が切れて現在の時計表示になります。

これで設定した時間が来るとタイマー再生がスタートします。
タイマーを中止しない限りは、毎日設定した時刻になると電源が入りタイマー再生になります。

あとからタイマーをセットする場合

DISPLAYキーを押して、現在の時計表示にしてからTIMERキーを押します。

- 電源は入ったままなので、引き続き本機を使えます。その後電源を切るときはPOWERキーを押します。



タイマーの設定を確かめるには

DISPLAYキーをくり返し押して、各設定表示を確認してください。

タイマー動作を中止するには

時計表示のときにTIMERキーを押します。（「TIMER」表示を消します。）

再生中にタイマー開始時刻になると

タイマーの設定が優先し、設定した入力に切り換わります。

タイマーのメモリー保持について

タイマー設定した内容は、電源コードを抜いたり停電しても、約5分間は内容を記憶しています。DISPLAYキーを押して設定内容を確認してください。

ご注意

- 手順1の「入力設定」で、接続した機器を選んだ場合は、機器に合わせた準備が必要です。また、本機の電源の入り／切りはできますが、接続した機器の電源の入り／切りはできません。市販のオーディオタイマーをご使用になり、本機と同時刻に、機器の電源が入り／切りできるようにセットしてください。
- タイマーのオンタイムとオフタイムを同じ時間に設定した場合は、オフタイムが優先し電源が切れます。
- オンタイムを変更した場合は、オフタイムを自動的に1時間後に変更します。必要に応じてオフタイムを変更してください。

接続した機器を再生するときは

接続のしかたは16～18ページをご覧ください。

1 **入力切換キーで、再生するソースを選びます。**
本体のTAPE/MDキー、VCRキー、VIDEO 1キー、VIDEO 2キーを押すと、本機の自動的に電源が入り、入力が切り換わります。

リモコンで選ぶときは
POWERキーを押して電源を入れてから、INPUT<または>キーを何回か押して、再生するソース名を表示させます。

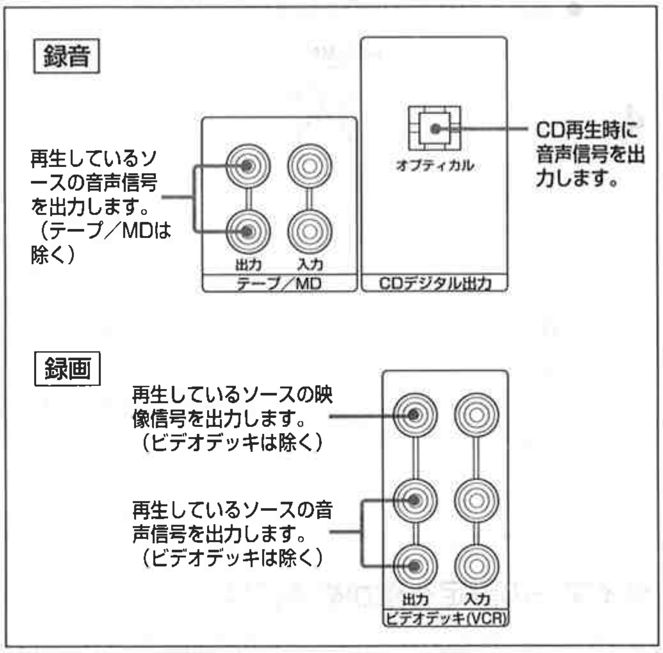
2 **音量を下げておきます。**

3 **接続した機器の電源を入れ、再生を始めます。**
- 音量を調整します。

- 接続した機器の操作方法は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

録音/録画するには

本機は、再生中のソースの音声/映像信号をそのまま音声/映像出力端子（TAPE/MD出力端子やビデオデッキ（VCR）出力端子）に出力しますので、録音/録画のための操作を本機で行うことはありません。
- 録音レベルの調整はデッキ側で行います。



CDやFM/AM放送を録音するときは

CDまたはFM/AM放送を聴いているときに、接続したテープ（MD）デッキを録音操作します。

ビデオソースを録画するときは

ビデオ1端子に接続したビデオ機器の音声/映像を、ビデオデッキ（VCR）端子に接続したビデオデッキで録画することができます。
- ビデオ機器を再生し、ビデオデッキを録画操作します。

ビデオテープをダビングするときは

ダビングもとのビデオデッキをシーリングパネル内のVIDEO 2端子に接続します。

① **VIDEO 2端子に接続したビデオデッキを再生します。**
② **ビデオデッキ（VCR）端子に接続したビデオデッキを録画操作します。**

映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画したいときは

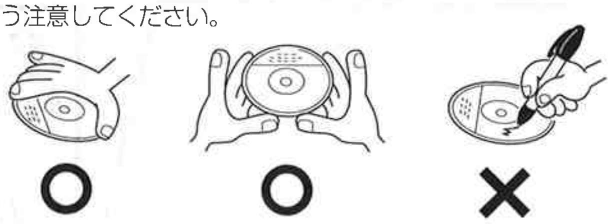
ビデオ系ソースの映像を選んだあと、オーディオ系ソースを選ぶとBVG（バックグラウンドビデオ：ビデオの映像はそのままに、音声のみオーディオ機器の音声に変える）録画をすることができます。
- 映像を消すには、ビデオ機器の電源を切ってください。

ご注意
- 音場効果を加えた音を録音することはできません。
- 録音/録画をするときは、事前に試し録音/録画をしてください。
- 本機の電源が切れているときは、接続した機器間の録音/録画はできません。
- 録音/録画をする際、同一ソースの録音/録画はできません。（ビデオデッキ入力端子から入った信号は、ビデオデッキ出力端子には出力されません。）
- あなたが録音/録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ディスクについて

取り扱いについて

- 必ず右図のマークが入っているコンパクトディスクをお使いください。
- 本機で再生できるディスクは、音楽用CD（コンパクトディスク）のみです。
  CD-G、CD-ROM、VSD、CDV、DVDディスクなどは再生できません。
- 演奏面は、文字のある反対の面です。
  演奏面に触れないでください。
- 必ず、ディスクの縁を持ってください。
- 文字のある面を硬い鉛筆やボールペンなどで文字を書かないでください。
  信号をそこないますので、演奏面と同様にキズをつけないよう注意してください。

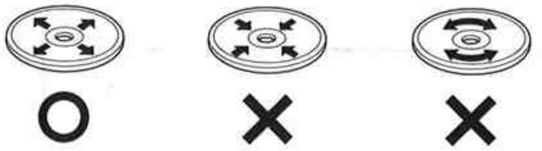


ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがあるものはお使いにならないでください。そのまま再生しますと、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

お手入れのしかた

指紋やほこりなど汚れがつくと、雑音や音とびの原因になります。汚れがついたときは、柔らかい布で、中央から縁の方向にまっすぐに軽くふきとってください。

- 矢印と反対の方向にふいたり、普通のレコードのようにまわしながらふかないでください。



- 次のものは使用しないでください。
  - •ベンジンやアルコールなどの溶剤
  - •研磨材を含むクリーナー
  - •レコード用のスプレーやクリーナー
  - •静電気防止剤

保管場所のご注意

ほこりやキズ、変形などを避けるため、必ず専用ケースに入れて保管してください。
次のような所に置かないでください。

- 直射日光が長時間あたる所（特に密閉した自動車内など）
- 暖房器具の近く
- ほこりや湿気の多い所

お手入れについて

- お手入れの際は、電源コードをコンセントからはずしてください。

本体／リモコンのお手入れ

ふつうの汚れは、やわらかい布で軽くふきとってください。汚れがひどいときは水でうすめた洗剤を布にふくませ、よくしぼってふき取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

ご注意

ベンジン、シンナーなどでふいたりすると変質したり、塗料がはげることがありますので使わないでください。

“露つき”現象について

つぎのような場合には、内部のレンズやCDに露（水滴）がつくことがあります。

◆ストーブをつけた直後。
◆湯気や湿気が立ちこめている部屋に置いてあるとき。
◆冷えた場所（部屋）から急に暖かい部屋に移動したとき。

露がついてしまうと

CDの信号が読み取れず、本機が正常な動作をしないことがあります。

露を取るには

CDを取り出して電源を入れておけば、約1時間位で露が取り除かれ、正常な動作をするようになります。

故障かなと思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申しつけになる前にあらかじめお調べください。

● 本機を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

● このようなときは、いったん電源プラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

こんなとき	ここをおたしかめください	参照ページ
スピーカーから音が出ない。	●ヘッドホンが差し込まれていませんか？ ●入力切換が間違っていませんか？ ●スピーカーコードがスピーカー端子からはずれていませんか？	25 — 9~11
低音が出ない。 音源の位置が不明りょう。	●スピーカーの極性（+、−）のつなぎかたが逆になっていませんか？	9~11
“ブーン”という雑音が入る。	●電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調をうけることがあります。 電源差し込みプラグの左右を逆に差しかえてみてください。	19
“MN ERR”または“MECHA ER”表示が出る。	●内部の故障ですので、電源を切ってサービスを依頼してください。	—
時計表示が点滅している。	●時刻合わせをしましたか？ ●停電がありませんでしたか？ 時刻を合わせ直してください。	23

●CDを聴くとき

こんなとき	ここをおたしかめください	参照ページ
●CDを入れても総曲数の表示がつかない。 ●操作ボタンを押しても動作をしない。 また、曲の途中で止まってしまい正しい演奏をしなくなる。 ●演奏音がとぎれる。	●CDの裏表をまちがえていませんか？ ●ディスクトレイの中に異物が入っていませんか？ ●CDに汚れやキズがありませんか？ ●規格外のCDを使用していませんか？ ●振動の多い不安定な場所においていませんか？ ●露がついていませんか？	26 — 43 26 — 43
●"NO DISC"が表示される。 ●ディスクトレイが出てきてしまう。	●CDにゴミやキズがついていたり、裏表を逆に入れていませんか？	26
ボタンを押しているうちに、正常な動作をしなくなった。	●一度、コンセントからプラグを抜いて電源を切り、再び操作をやり直してください。	—

●ラジオ放送を聞くとき

症状	原因・処置	参照ページ
FM放送に“ザー”という連続音が入る。	●アンテナの位置が悪くありませんか？	14
AM放送を聞いているときに、“シー”“ザー”という連続音が入る。	●テレビなどからの雑音が入る、または、放送局間の干渉音が聞こえることがあります。テレビを消すか、テレビから離してください。	—

●音場プログラムを使うとき

症状	原因・処置	参照ページ
センター、リアスピーカーから音が出ない。	●「DSP OFF」が表示されていませんか？ ●センター、リアスピーカーの音量が下げられていませんか？	35 36
センタースピーカーから音が出ない。	●プログラムNo 3から8のプログラムを使っていませんか？	34
リアスピーカーから音が出ない。	●モノラルソースをプログラムNo 1から2のプログラムを使って再生していませんか？	34

●リモコンを使うとき

症状	原因・処置	参照ページ
正しい動作をしない。	●乾電池が消耗していませんか？ ●受信部に正しく向けていますか？ ●受信部との距離が遠すぎませんか？ または近すぎませんか？ ●受信部に強い日光や照明(インバーター蛍光灯など)があたっていませんか？ ●他の機器のリモコンを同時に操作していませんか？ ●乾電池の ⊕ ⊖ が逆になっていませんか？	22

●タイマーを使うとき

症状	原因・処置	参照ページ
タイマーがスタートしない。	●時刻合わせをしましたか？	23
	●「TIMER」が表示されていますか？	41

●本機をテレビの近くに置いているとき

症状	原因・処置	参照ページ
“キーン”や“ブーン”という雑音が入る。 または、雑音が録音される。	●使用するテレビによっては、テレビから雑音が入ることがあります。テレビと本機の位置を左右入れかえるか、雑音がなくなるまで離してください。または、テレビを消してください。	—
他のチューナーやテレビに雑音や映像の乱れが生じる。	●室内アンテナを使用しているチューナーやテレビを近くに置いていませんか。特に、室内アンテナを使用しているチューナーやテレビに起こりやすいので、屋外アンテナの使用をおすすめします。	—

仕様について

アンプ部

定格出力	
フロント	30W+30W (1kHz、10% THD、6Ω)
センター	30W (1kHz、10% THD、6Ω)
リア	30W+30W (1kHz、10% THD、6Ω)
サブウーファー	50W (100Hz、10% THD、4Ω)
S/N比	85dB(TAPE/MD、IHF-A)
ヘッドホン出力インピーダンス	68Ω
全高調波歪率	0.08%(入力:TAPE/MD 1kHz、12.5W/6Ω)
入力感度/インピーダンス	100mV/20kΩ

ビデオ部

信号レベル	1Vp-p/75Ω
最大入力レベル	1.5Vp-p
S/N比	50dB
モニターアウト周波数特性	5Hz~10MHz、−3dB

CD部

型式	シングルCDプレーヤー
読み取り方式	非接触光学式読み取り方式 (3ビーム半導体レーザー方式)
D/Aコンバーター	1bit DAC
フィルター	8倍オーバーサンプリング デジタルフィルター
ワウ・フラッター	測定限界値以下

チューナー部

FM受信周波数範囲	76.00MHz~108.00MHz
FM実用感度(MONO)	1.5μV(14.8dBf)
AM受信周波数範囲	531kHz~1611kHz
AM実用感度	280μV/m

スピーカー

型名	NX-AV1 (フロント、センター、リアスピーカー)
型式	密閉型
スピーカー	8cm コーン
最大許容入力	40W
インピーダンス	6Ω

サブ（スーパー）ウーファー

型名	SW-AV1
型式	アクティブサーボプロセシング方式 バスレフ型
スピーカー	20cm コーン
最大許容入力	60W
インピーダンス	4Ω

総合

電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	125W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	
TCD-AV1	320×70×258mm
NX-AV1	94×117×108mm
SW-AV1	250×425×418mm
重量	
TCD-AV1	2.6kg
NX-AV1	0.7kg
SW-AV1	14.5kg
付属品	リモコン×1 単3乾電池×2 AM用ループアンテナ×1 FM用アンテナ×1 音声接続ケーブル×1 システムコネクターケーブル×1 スピーカーコード×5 スピーカー取り付け金具×10 ネジ×8 蝶ネジ×2 スピーカーコード識別シール×1

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

＊ 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

＊ 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

本システムは本体部（TCD-AV1）・サブウーファー部（SW-AV1）の単体では動作しませんので、本体部とサブウーファー部のセットで修理をご依頼ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488－5500

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点
（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口）

北海道	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙　台	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒211	川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434 - 3100
東　京	（お持ち込み修理のみ取扱い） 〒108	東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488 - 6625
浜　松	〒435	浜松市上西町911　ヤマハ（株）宮竹工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ（株）名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ（株）千里丘センター内 TEL (06) 877 - 5262
広　島	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL (082) 874 - 3787
四　国	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック高松店内 TEL (0878) 22 - 3045
九　州	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？
- ● 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ● コゲくさい臭いがする。
- ● 電源コードに深いキズか変形がある。
- ● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- ● 電源を入れても正常に作動しない。
- ● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営　業　部 TEL (053) 460−3451
品質保証室 TEL (053) 460−3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA

VZ30050-2 Printed in Malaysia